

令和4年度
草加市子ども教育の連携に関する
児童生徒アンケート報告書

令和5年2月
草加市教育委員会

目次

第1部 調査概要	3
1 調査の目的.....	4
2 調査の方法.....	4
3 回答状況.....	4
4 主な調査事項.....	4
5 調査結果について.....	4
6 結果の概要と分析.....	5
7 調査のまとめ.....	11
第2部 調査結果	13
1 各設問の調査結果.....	14
2 自己肯定感・自己有用感に関する分析.....	39
第3部 資料	45
1 電子回答の内容.....	46
(1) 回答画面.....	46
(2) 設問内容.....	47

第1部 調査概要

1 調査の目的

- ① 第三次草加市子ども教育連携推進基本方針・行動計画の基本理念に掲げる「自己肯定感」「自己有用感」について実態を把握するとともに、取組の進展に伴う変容を明らかにします。
- ② 子ども教育の連携に係るこれまでの取組が、児童生徒にどのように受け止められているのかを明らかにします。

自己肯定感…「自分は大切な存在だ」と思うことができ、自分に自信をもつことができる心のこと
自己有用感…他人の役に立った、他人に喜んでもらえたなど、社会性の基礎となる心のこと

2 調査の方法

【調査対象】 市内の小学校3年生から中学校3年生までの全児童生徒

- 【調査方法】 ① 調査期間中に市立小中学校で学級ごとにアンケートを実施
② 児童生徒は、タブレット端末で電子回答

【調査期間】 令和4年6月6日（月）から令和4年6月24日（金）まで

3 回答状況

	調査対象	対象者数（件）	回答数（件）	回答率（％）
小学校	3年生	1,989	1,746	87.78%
	4年生	1,984	1,637	82.51%
	5年生	1,916	1,558	81.32%
	6年生	1,991	1,787	89.75%
	小学校計	7,880	6,728	85.38%
中学校	1年生	1,941	1,622	83.57%
	2年生	1,965	1,629	82.90%
	3年生	2,051	1,687	82.25%
	中学校計	5,957	4,938	82.89%
	全体合計	13,837	11,666	84.31%

4 主な調査事項

- (1)～(12) 目指す「草加っ子」に関する設問
 - (13)～(15) 「ふるさと草加学習」に関する設問
 - (16) 子どもたちの夢や希望に関する設問
 - (17)～(19) 自己肯定感に関する設問
 - (20)～(22) 自己有用感に関する設問
 - (23)～(25) 交流・連携に関する設問
- ※ (25)は、小学校5・6年生及び中学校1年生のみ対象
※ (1)～(16)及び(23)～(25)は四つの選択肢から、(17)～(22)は五つの選択肢から「自分の考えに一番近いもの」を一つ選んで回答します。詳細は、「第3部 資料」をご覧ください。

5 調査結果について

- (1) 集計結果の回答率（％）は、小数第二位を四捨五入しています。そのため、**各選択肢の回答率の合計が、100.0%にならないことがあります。**
- (2) 質問文及び選択肢が長い場合、一部省略して表記しています。
- (3) 令和2年度から令和4年度まで、3カ年のグラフを掲載しています。ただし、令和4年度は

令和2・3年度と調査方法が異なるため、比較する際はその点に留意してください。

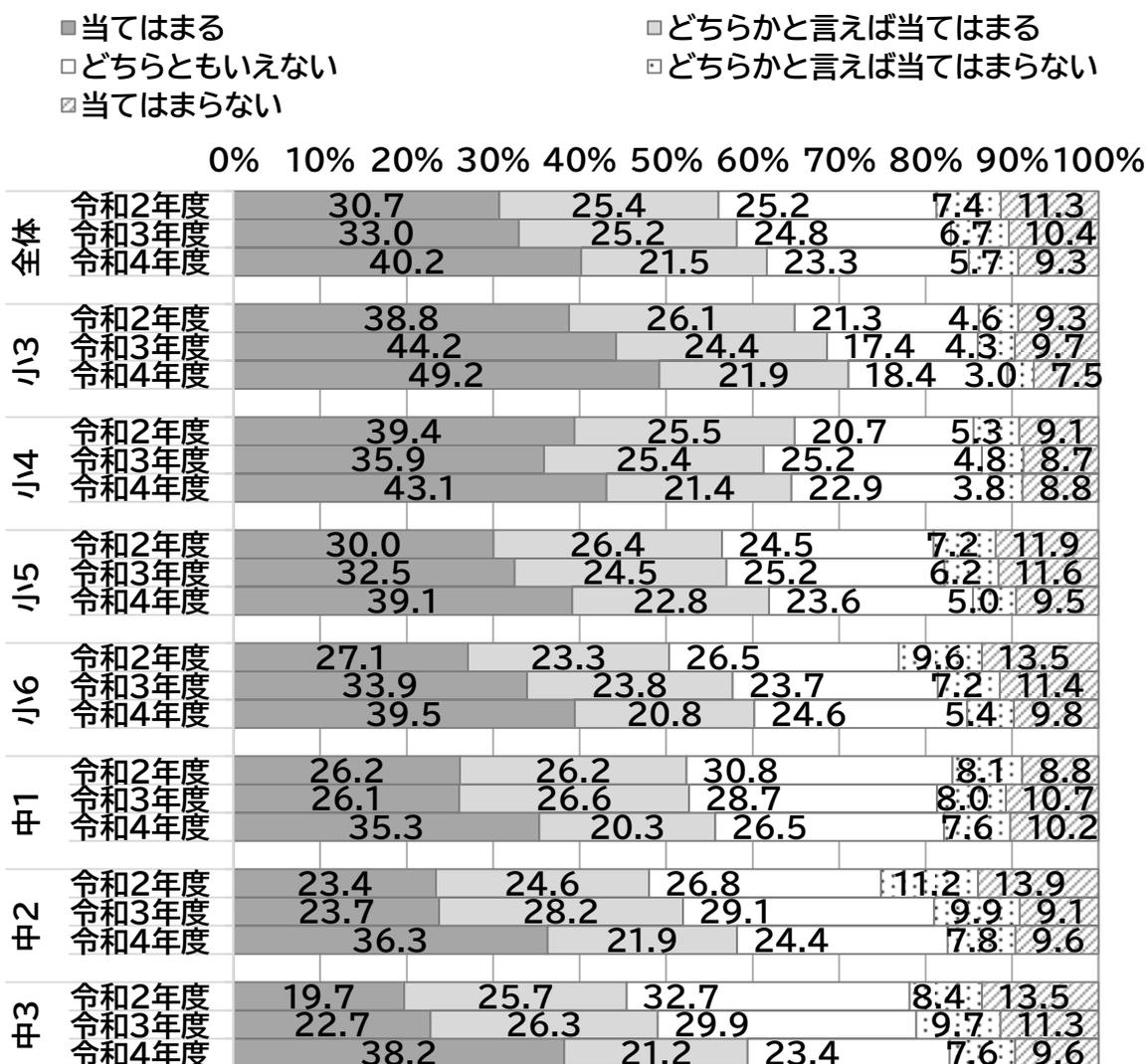
	令和4年度	令和2・3年度
調査対象	小学校3年生から中学校3年生まで、 全数調査	小学校3年生から中学校3年生まで、 各校各学年から1学級ずつ抽出調査
回答方法	電子回答システムへ直接入力	紙の調査票へ記入して回収

6 結果の概要と分析

(1) 自己肯定感及び自己有用感

自己肯定感に関する設問（(17)～(19)）と、自己有用感に関する設問（(20)～(22)）の回答について、それぞれ単純集計しました。

自己肯定感



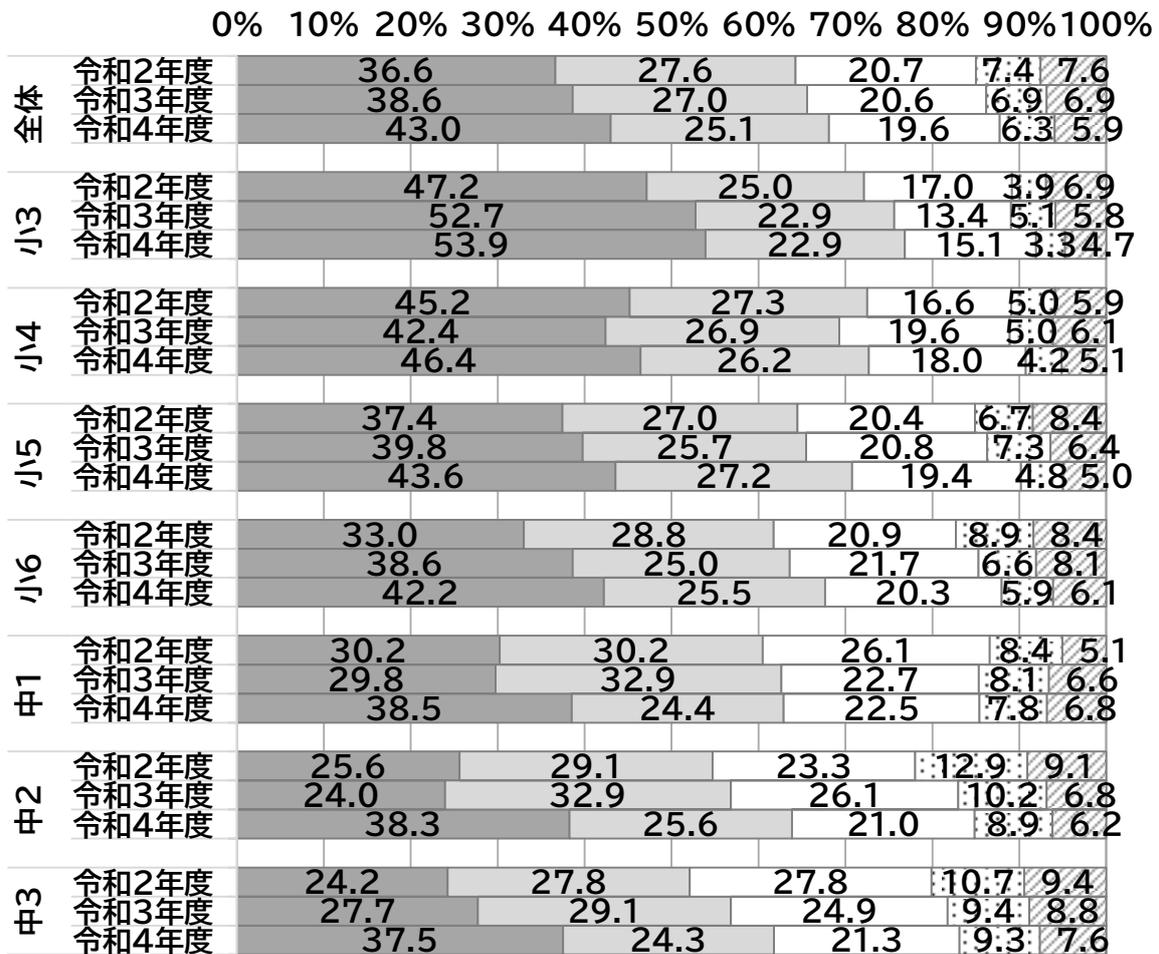
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答割合は、61.7%（前年比+3.5ポイント）でした。特に「当てはまる」の回答割合が前年比+7.2ポイントと大きく増加しました。否定的な回答割合は、15.0%（前年比-2.1ポイント）でした。
- 学年別に見ると、中学校1年生以降で、特に「当てはまる」が大きく増加しています。以下の要因が推測できます。

- 学校行事や部活動等が再開されてきて、自己の能力を発揮する場面が増えた。
- 電子回答のため、他者の目を気にせずに回答することができた。
- 一般的に自己肯定感は、学年が上がるにつれて減少する傾向があります。今年度の調査結果では、中学校1年生から中学校3年生まで肯定的な回答割合が増加しており、草加市の実態の特徴が現れていると考えられます。

自己有用感

- 当てはまる
- どちらともいえない
- ▣ 当てはまらない
- ▤ どちらかと言えば当てはまる
- ▥ どちらかと言えば当てはまらない



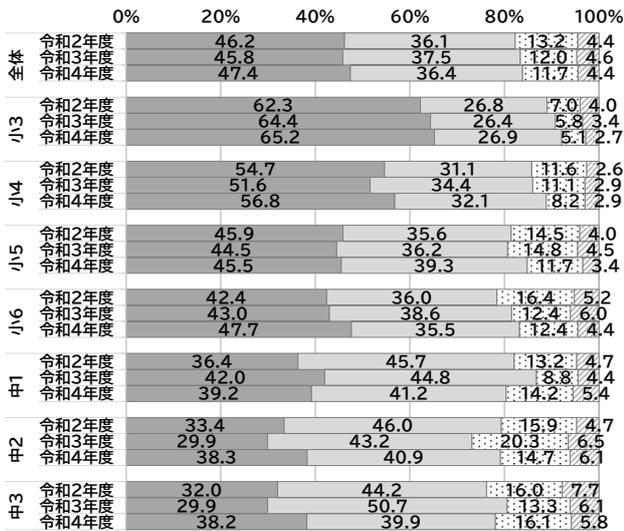
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答割合は、68.1%（前年比+2.5ポイント）でした。否定的な回答割合は、12.2%（前年比-1.6ポイント）でした。
- 学年別に見ると、中学校1学年以降の学年で、「当てはまる」が大きく増加しています。自己肯定感と同様の要因が推測できます。
- 一般的に自己有用感は、学年が上がるにつれて減少する傾向があります。今年度の調査結果は、中学校1年生から中学校3年生まで肯定的な回答割合がほぼ一定で減少しておらず、草加市の実態の特徴が現れていると考えられます。

(2) 自ら学ぶ力

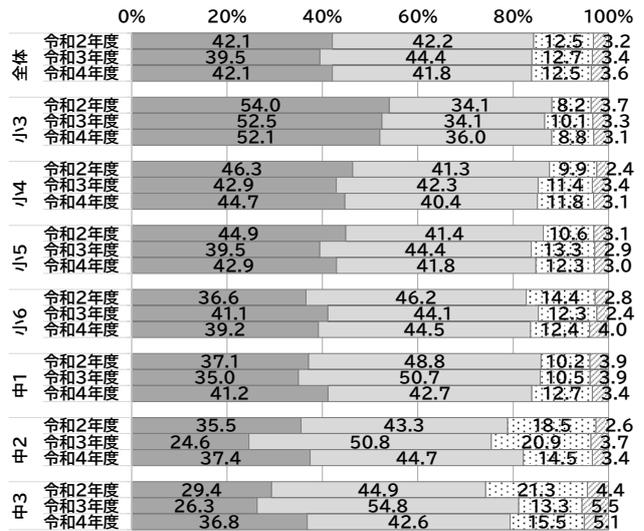
勉強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい。

■当てはまる □どちらかと言えば当てはまる
□どちらかと言えば当てはまらない □当てはまらない



学んだことを、普段の生活で生かそうとしている。

■当てはまる □どちらかと言えば当てはまる
□どちらかと言えば当てはまらない □当てはまらない



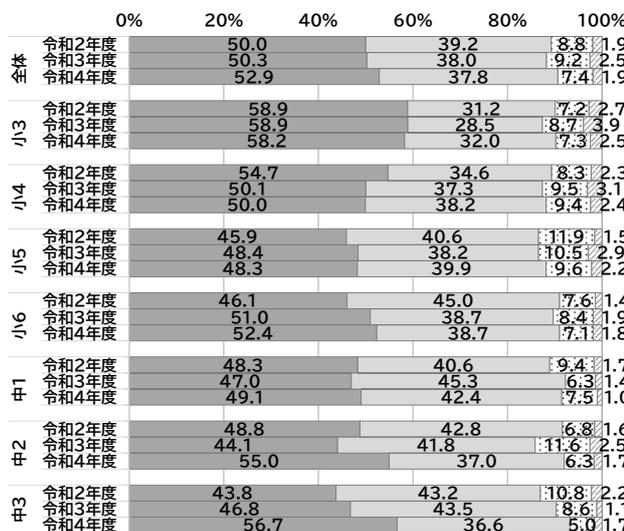
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、「勉強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい」の肯定的な回答割合は、ほぼ一定ですが、中学校2年生の「当てはまる」が前年比+8.4ポイント、中学校3年生の「当てはまる」が前年比+8.3ポイントと大きく増加しています。
- 全体では、「学んだことを、普段の生活で生かそうとしている」の肯定的な回答割合は、ほぼ一定ですが、中学校2年生の「当てはまる」が前年比+12.8ポイント、中学校3年生の「当てはまる」が前年比+10.5ポイントと大きく増加しています。
- 両設問とも、肯定的な回答は高い割合で推移しており、特に中学校1年生以降は、「当てはまる」の回答割合が高くなっています。今後は、否定的な回答をした児童生徒に、学びの楽しさを感じさせ、学びを活用しようという態度を養うことを意識して日々の授業を充実させていくことが求められます。

(3) 豊かな心・たくましく生きる力

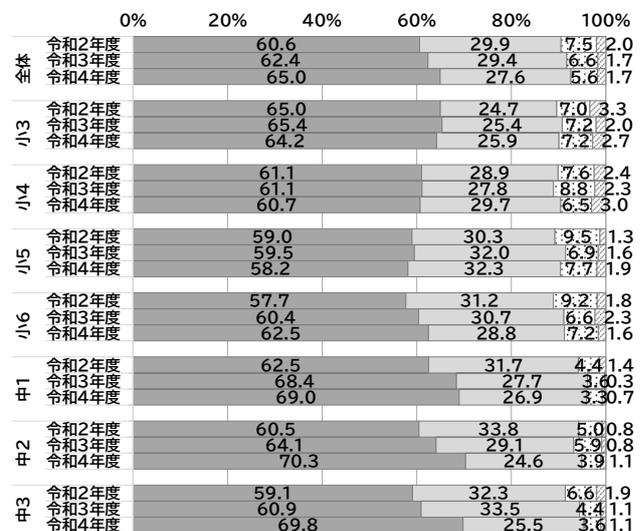
人に迷わくをかけないように、やりたいことでも、がまんできる。

■当てはまる □どちらかと言えば当てはまる
□どちらかと言えば当てはまらない □当てはまらない



あいさつや返事をしっかりとるようにしている。

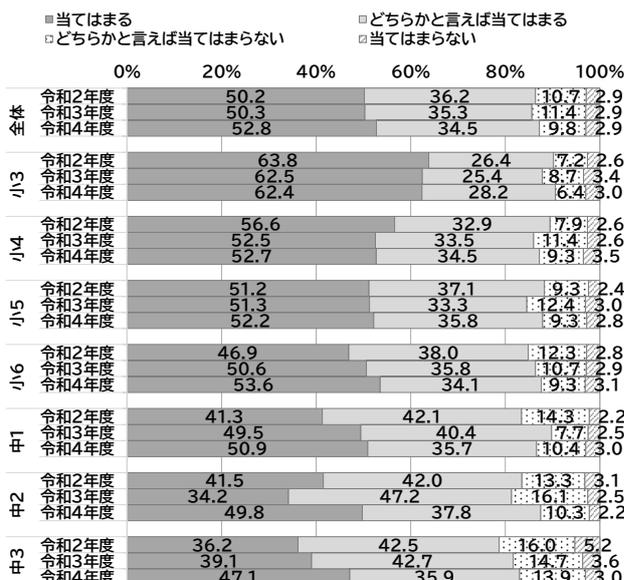
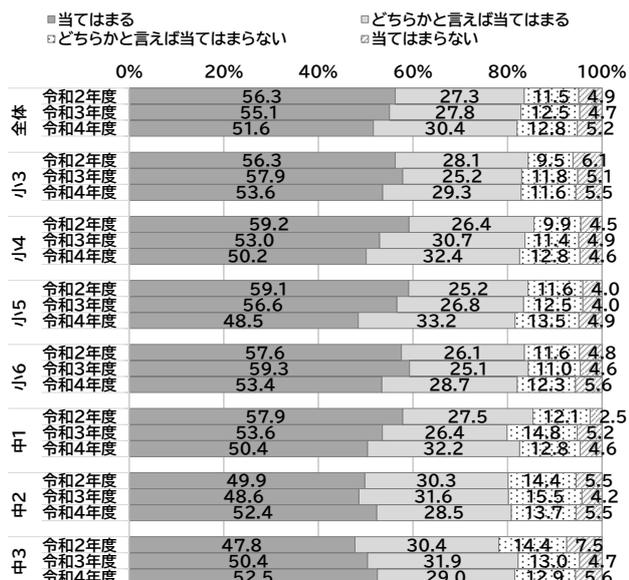
■当てはまる □どちらかと言えば当てはまる
□どちらかと言えば当てはまらない □当てはまらない



※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

ほぼ毎日、早ね早起きをして、朝ごはんを食べている。

すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むようにしている。



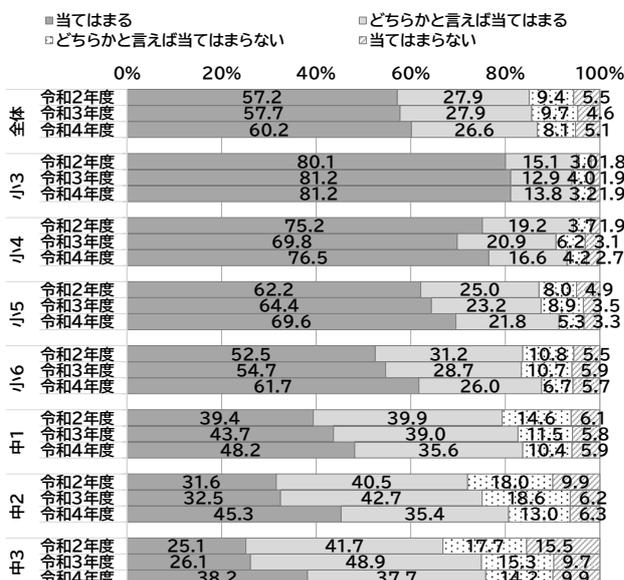
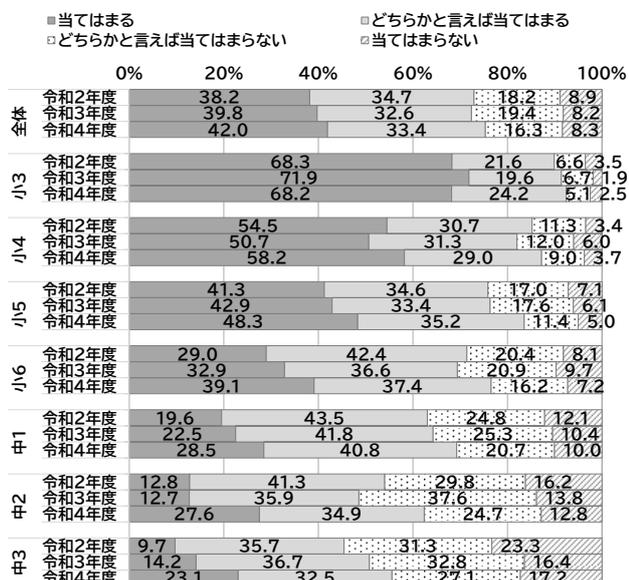
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、「がまんをすること」の肯定的な回答割合が90.7%（前年比+2.4ポイント）、同じく「あいさつや返事をする事」が92.6%（前年比+0.8ポイント）、同じく「あきらめずにものごとに取り組むこと」が87.3%（前年比+1.7ポイント）と、90%近い割合を維持しています。
- 学年別では、「がまんをすること」、「あいさつや返事をする事」「あきらめずにものごとに取り組むこと」について、特に中学校2・3年生の「当てはまる」の回答割合が大きく増加しています。
- 一方で、「早寝早起き朝ごはん」については、全体を見ると肯定的な回答割合が減少しています。学年別では、小学校3年生から小学校6年生まで「当てはまる」の回答割合が大きく減少しています。コロナ禍により、児童の家庭生活に悪影響が出ていることが推測できます。
- 生活リズムの乱れは、長期的に児童生徒の育ちに様々な悪影響を及ぼすと考えられます。今後は、家庭との連携を深めて、家庭の教育力向上を図っていくことが一層重要です。

(4) ふるさと草加学習

授業などを通して、草加について学ぶことは楽しい。

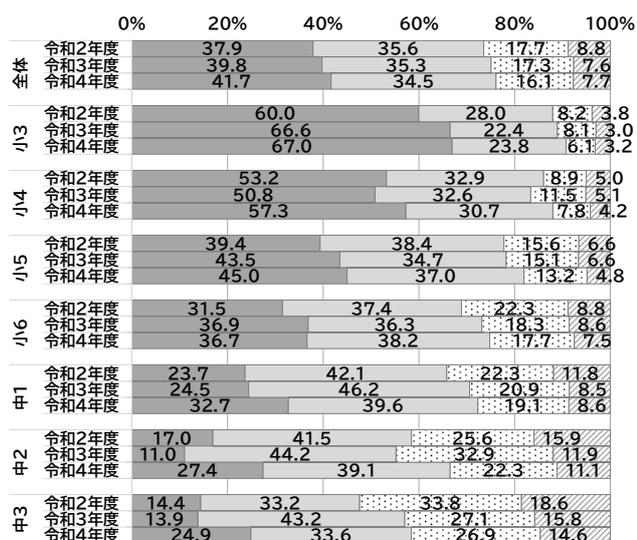
草加のまちが好きだ。



※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

自分が住む地いきや、草加の役に立つことをしてみたい。

■当てはまる □どちらかと言えば当てはまる
 □どちらかと言えば当てはまらない □当てはまらない



※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、「草加について学ぶことは楽しい」の肯定的な回答割合が75.4%（前年比+3ポイント）、同じく「草加のまちが好きだ」が86.8%（前年比+1.2ポイント）、同じく「草加の役に立つことをしてみたい」が76.2%（前年比+1.1%）と、どの設問も前年比で増加し、75%を超えました。
- 学年別に見ると、小学校5年生以降は大きく増加している設問が多く、特に中学校2・3年生では、「当てはまる」の回答割合が大きく増加しています。
- 児童生徒が地域に誇りと愛着をもつことは、自己有用感の育成と関係します。各学校では、児童生徒の実態と地域の実情に応じて、引き続き「ふるさと草加学習」を充実させていくことが重要です。

(5) 自己肯定感・自己有用感と他の設問の相関分析

令和4年度は、電子回答の導入により、個人の回答データを収集したため、一人ひとりの回答を点数化し、自己肯定感・自己有用感の平均値を求めることができます。

この一人ひとりの平均値と(1)～(16)の各設問について、相関分析を行いました。

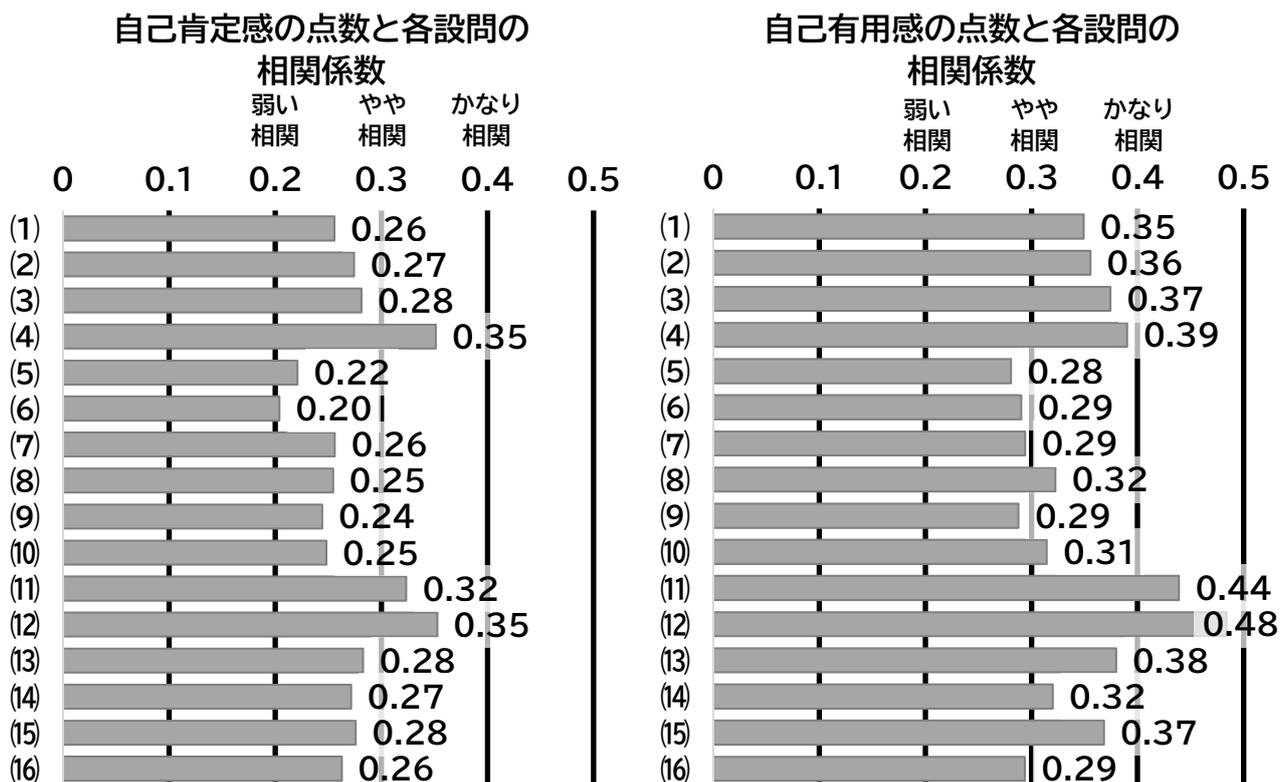
相関分析

設問Aの回答が+になるほど、設問Bの回答も+になること(正の相関)や、逆に設問Aの回答が+になるほど、設問Bの回答は-になること(負の相関)を+1～-1の範囲の値で示す分析手法です。この相関を表す値を相関係数と呼びます。本調査では、相関係数の意味を次のとおり解釈します。

ただし、相関がある場合でも、因果関係は明らかにならない点には、注意が必要です。

相関係数の絶対値	意味
0.2～0.3	弱い相関がある
0.3～0.4	やや相関がある
0.4～0.7	かなり相関がある
0.7～1	強い相関がある

自己肯定感・自己有用感の点数と各設問の相関係数は、次のとおりです。



平成28年度調査で同様の分析を行った結果は、次のとおりでした。令和4年度の分析でも同様の傾向が見られることが分かります。

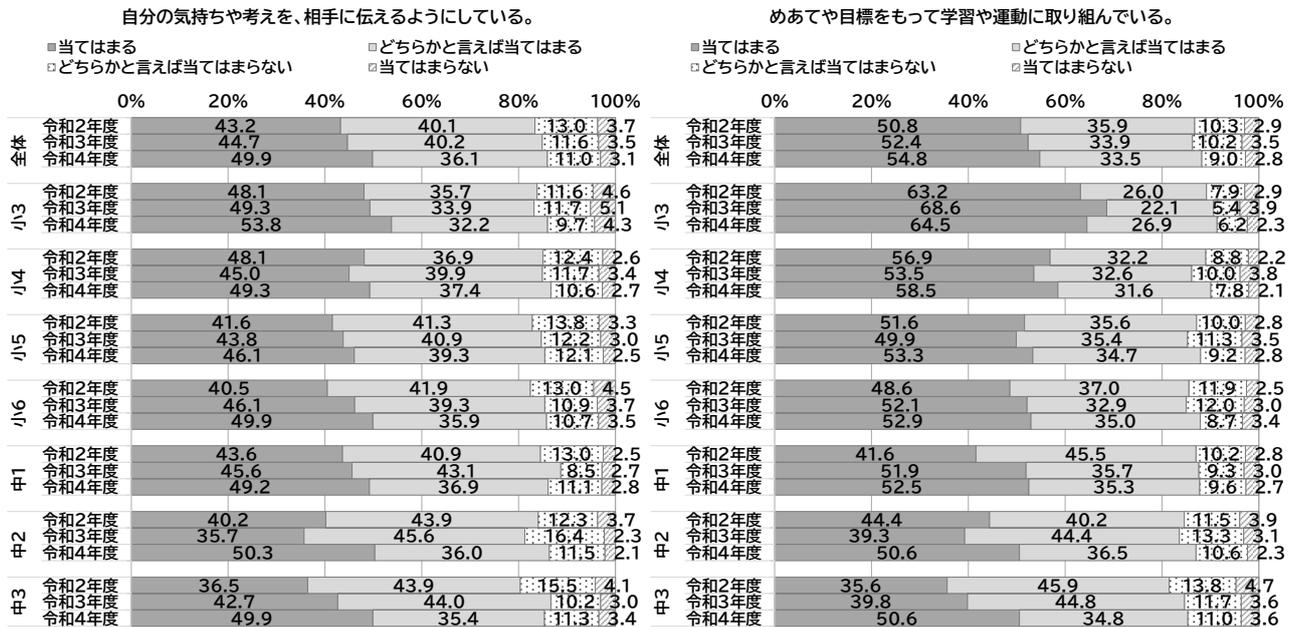
設問	相関の有無	
	肯定感	有用感
(3) 学んだことを、普段の生活で生かそうとしている。		有
(4) 自分の気持ちや考えを、相手に伝えるようにしている。	有	有
(11) めあてや目標をもって運動に取り組んでいる。*	有	
(12) すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むようにしている。	有	有

※ 令和2年度以降の質問は、「めあてや目標をもって学習や運動に取り組んでいる。」。

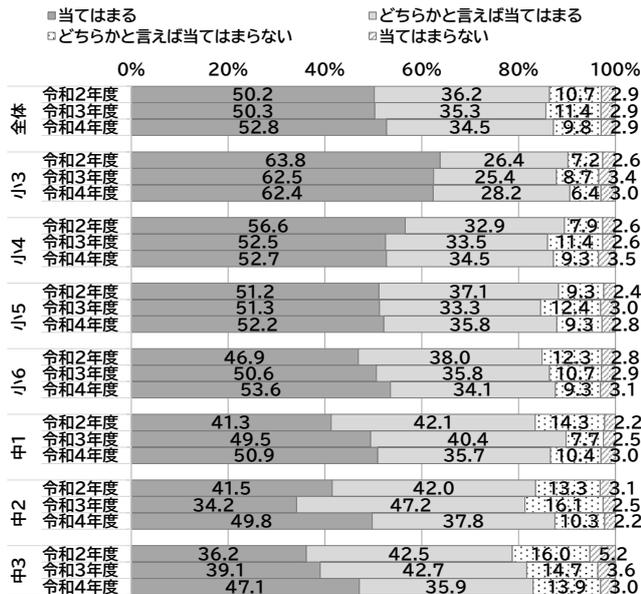
- 自己肯定感・自己有用感と、目指す草加っ子の実態等に関する設問である(1)～(16)のすべてに、少なくとも弱い相関があることが分かります。したがって、自己肯定感・自己有用感を育むことが、目指す草加っ子の育成と相関していることが分かります。
- 自己有用感と各設問の相関は、自己肯定感との相関より強いことが分かります。したがって、目指す草加っ子を育成する際の指標として、自己有用感を用いることがより有効だと言えます。
- 自己肯定感と自己有用感共に比較的強い相関がある設問は、「(4)自分の気持ちや考えを、相手に伝えるようにしている。」「(11)めあてや目標をもって学習や運動に取り組んでいる。」「(12)すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むようにしている。」でした。この3点に配慮して教育活動を行うことが、自己肯定感・自己有用感の育成において有効であると推測できます。
- 自己有用感との相関では、上記のほか、「(1)勉強や読書を通して、いろいろなことを知りたい。」「(2)勉強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい。」「(3)学んだことを、普段の生活で生かそうとしている。」「(13)授業などを通して、草加について学ぶことは楽しい。」「(15)自分が住む地域や、草加の役に立つことをしてみたい。」の相関係数が0.35を超えています。このことから、ふるさと草加を題材に各教科で学んだことを活用して課題解決を行う「ふるさと草加学習」は、自己有用感の育成に有効であると推測できます。

(6) 自己肯定感・自己有用感と相関がある設問

相関分析で明らかになった、自己肯定感・自己有用感と相関がある設問の結果は、次のとおりです。



すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むようにしている。



※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答割合は、ほぼ一定です。「当てはまる」の回答割合は、「自分の気持ちや考えを伝える」が前年比+5.2ポイント、「目標をもって学習や運動に取り組む」が前年比+2.4ポイント、「あきらめずにものごとに取り組む」が前年比+2.5ポイントと増加しています。
- 学年別では、特に中学校2・3年生の「当てはまる」が大きく増加しています。

7 調査のまとめ

- (1) 自己肯定感・自己有用感や目指す「草加っ子」は、着実に育まれていることが分かりました。小学校では肯定的な回答割合を高いまま維持しており、中学校では特に2・3年生の肯定的な回答割合が大きく増加しています。幼児期の教育から中学校教育まで積み上げていく草加の

教育の特色が現れています。

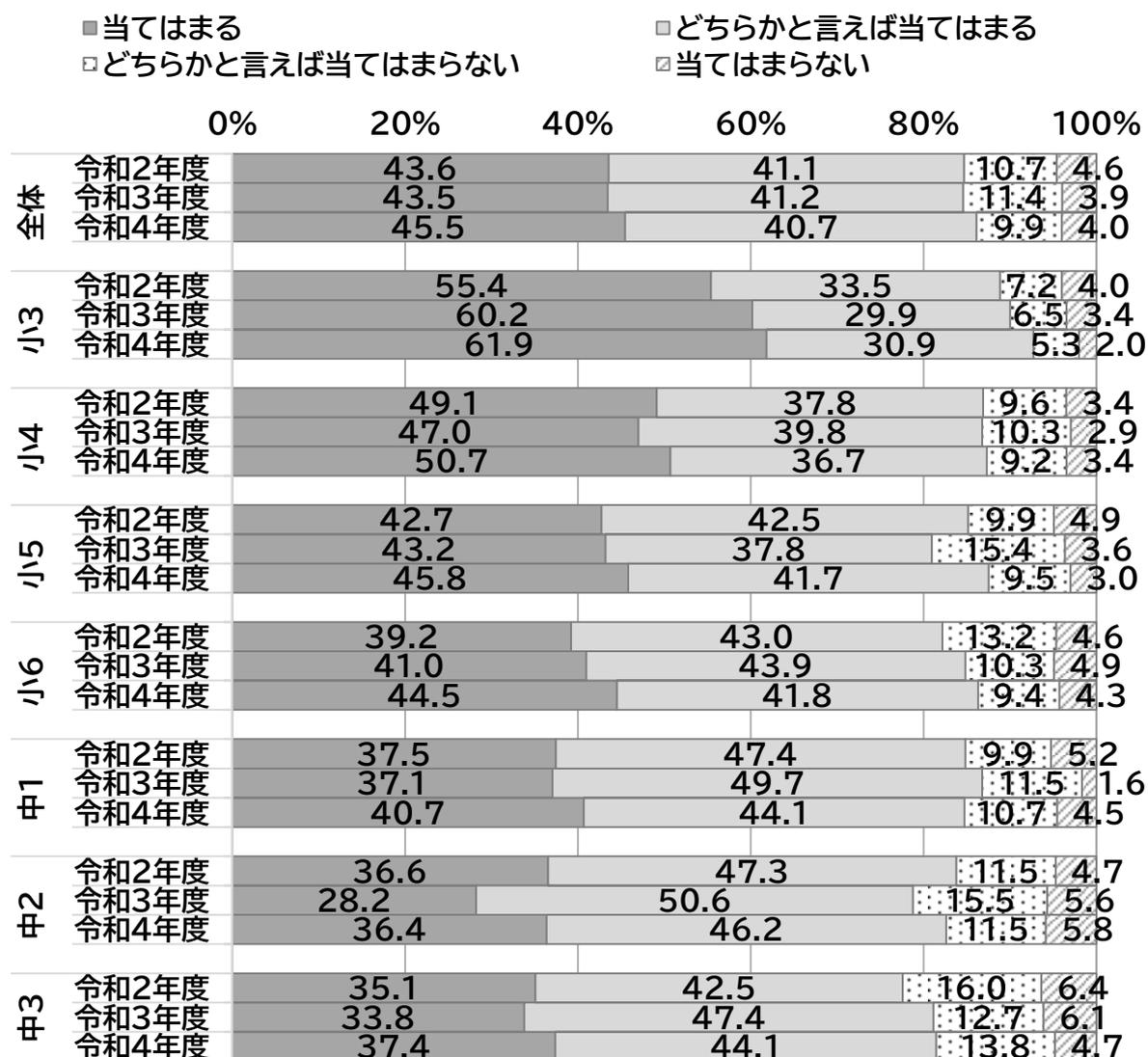
- (2) 「早寝早起き朝ごはん」など、生活リズムの乱れが伺えます。家庭との連携を図り、**家庭の教育力向上に取り組むことが一層重要**です。
- (3) 自己肯定感・自己有用感と目指す「草加っ子」のすべての設問に相関があることが分かりました。特に、自己有用感との相関が強いため、教育活動において、**児童生徒が「自分は人の役に立つことができる・できた」と実感できるようにすることが重要**です。その際、ふるさと草加学習の充実が有効だと推測できます。
- (4) 自己肯定感・自己有用感を育成するために、児童生徒が、
 - ① 自分の気持ちや考えを、相手に伝える
 - ② めあてや目標をもって学習や運動に取り組む
 - ③ すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むことができるよう、**授業や学校行事等の教育活動で配慮することが重要**です。

第2部 調査結果

1 各設問の調査結果

(1) 勉強や読書を通して、いろいろなことを知りたい。

勉強や読書を通して、いろいろなことを知りたい。

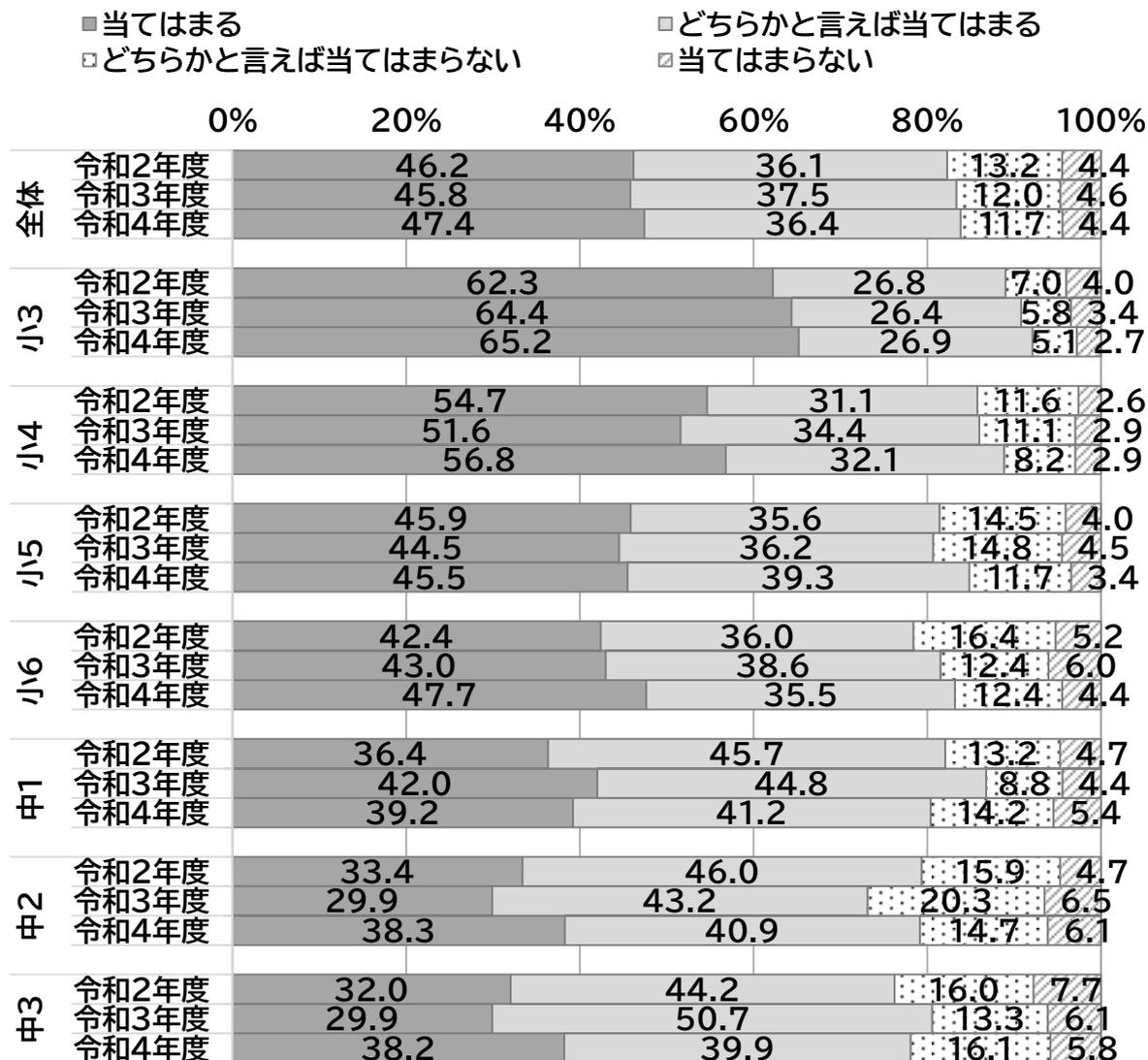


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、86.2%（前年比+1.5ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、13.9%（前年度比-1.4ポイント）でした。
- 学年別では、中学校2年生の「当てはまる」が前年比+8.2ポイントで、肯定的な回答の割合が、令和2年度と同程度になりました。

(2) 勉強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい。

勉強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい。

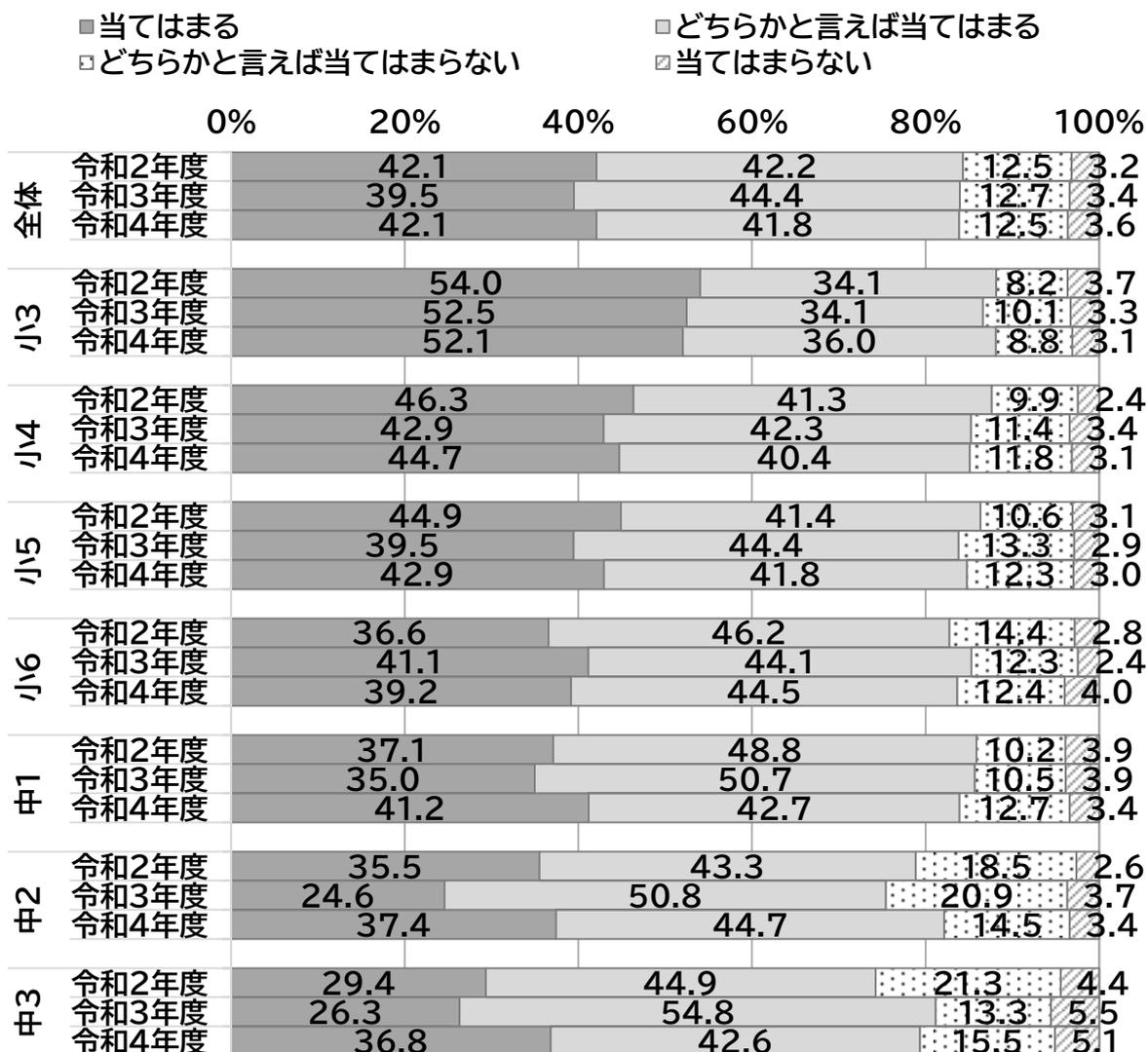


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、83.8%（前年比+0.5ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、16.1%（前年度比-0.5ポイント）でした。
- 学年別では、特に中学校2年生と3年生の「当てはまる」が、それぞれ前年比+8.4ポイント、+8.3ポイントと大きく増加しました。

(3) 学んだことを、普段の生活で生かそうとしている。

学んだことを、普段の生活で生かそうとしている。

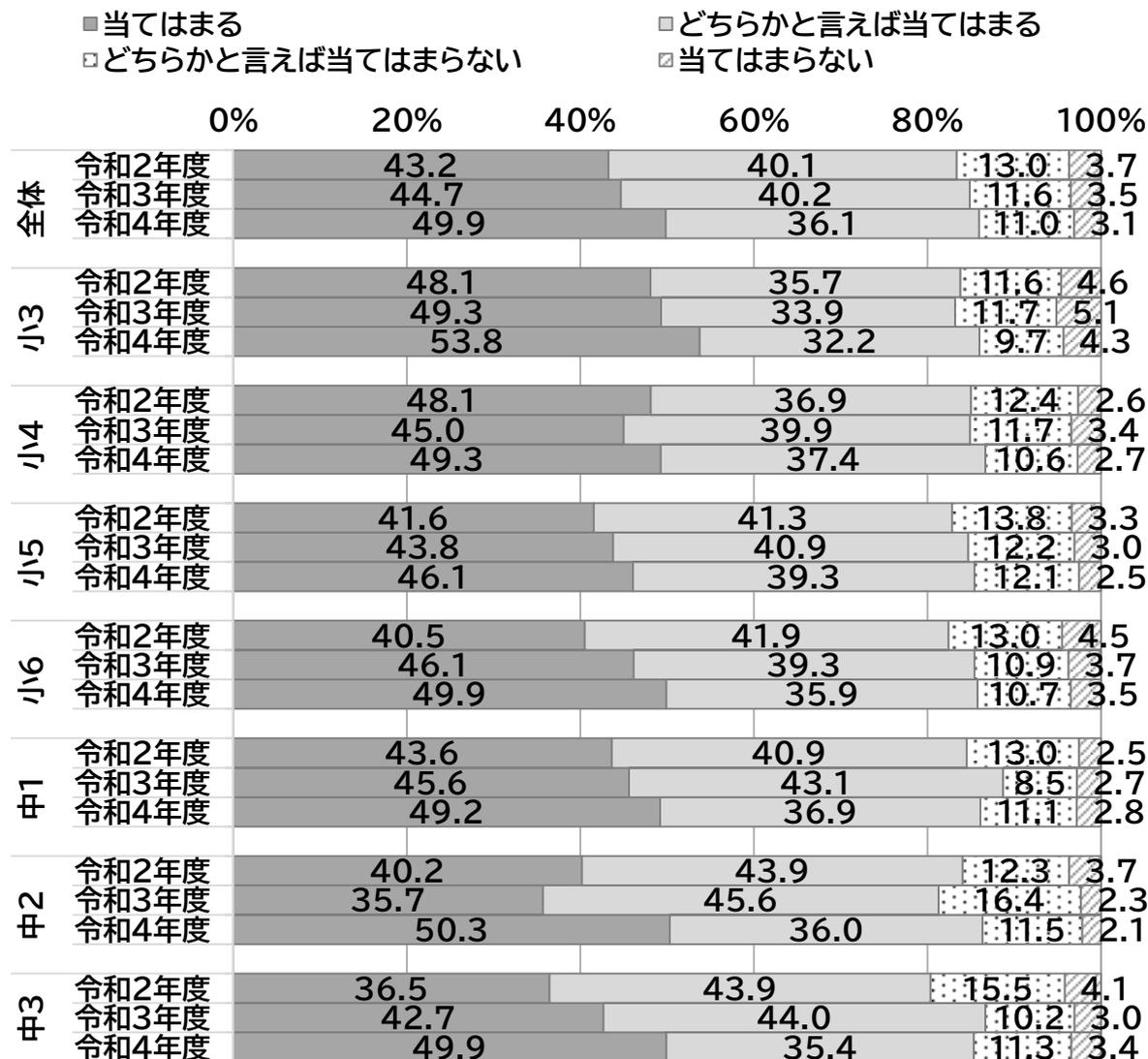


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、83.9%（前年比±0ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、16.1%（前年度比±0ポイント）でした。
- 学年別では、特に中学校1～3年生の「当てはまる」が、それぞれ前年比+6.2ポイント、+12.8ポイント、+10.5ポイントと大きく増加しました。

(4) 自分の気持ちや考えを、相手に伝えるようにしている。

自分の気持ちや考えを、相手に伝えるようにしている。

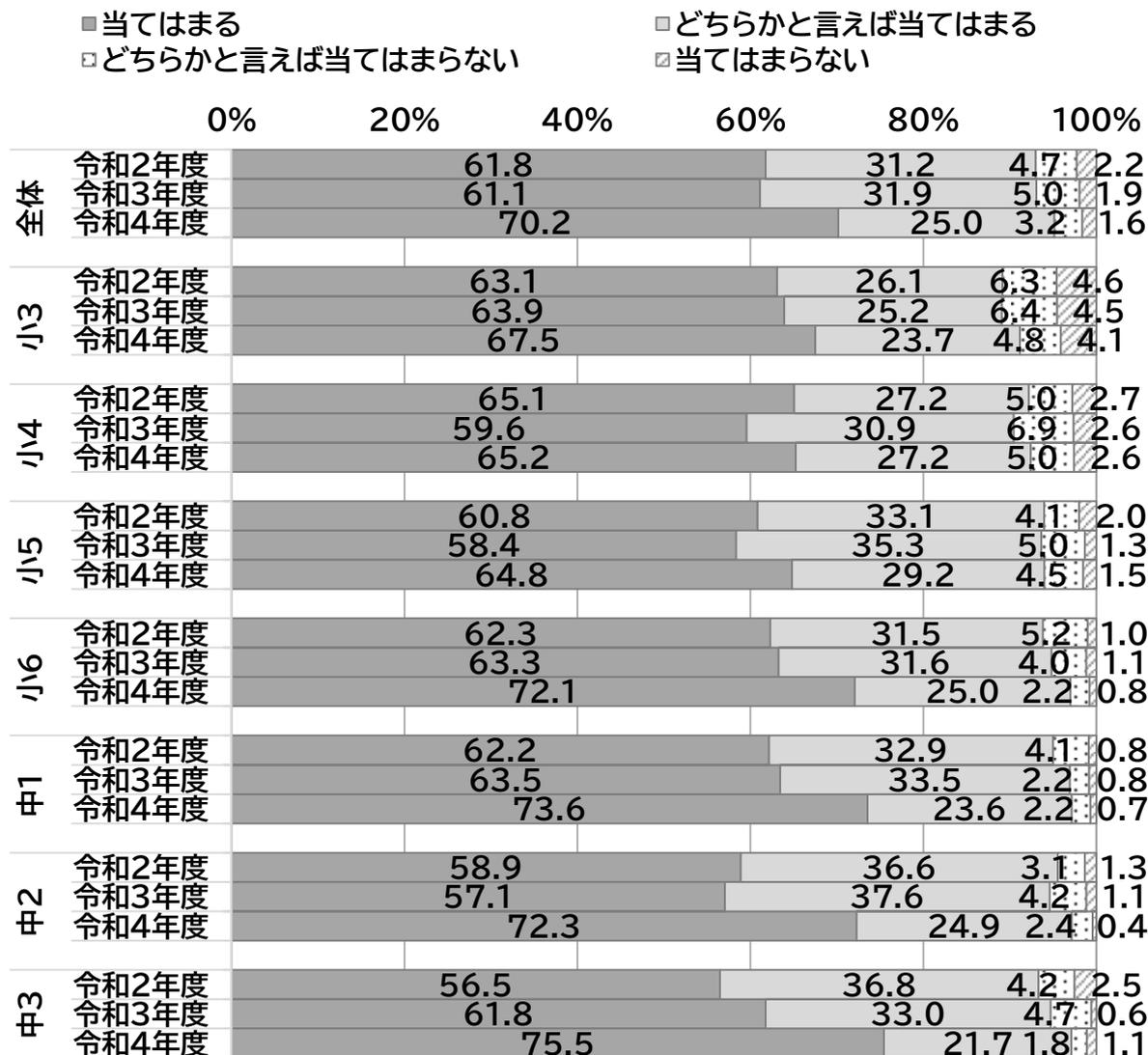


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、86.0%（前年比+1.1ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、14.1%（前年度比-1.0ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で、「当てはまる」の割合が増加しました。特に中学校2年生では、前年比+14.6ポイントと大きく増加しました。
- 増加の要因としては、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組んでいること等が考えられます。

(5) いじめを許さないで、思いやりをもって人と接するようにしている。

いじめを許さないで、思いやりをもって人と接するようにしている。

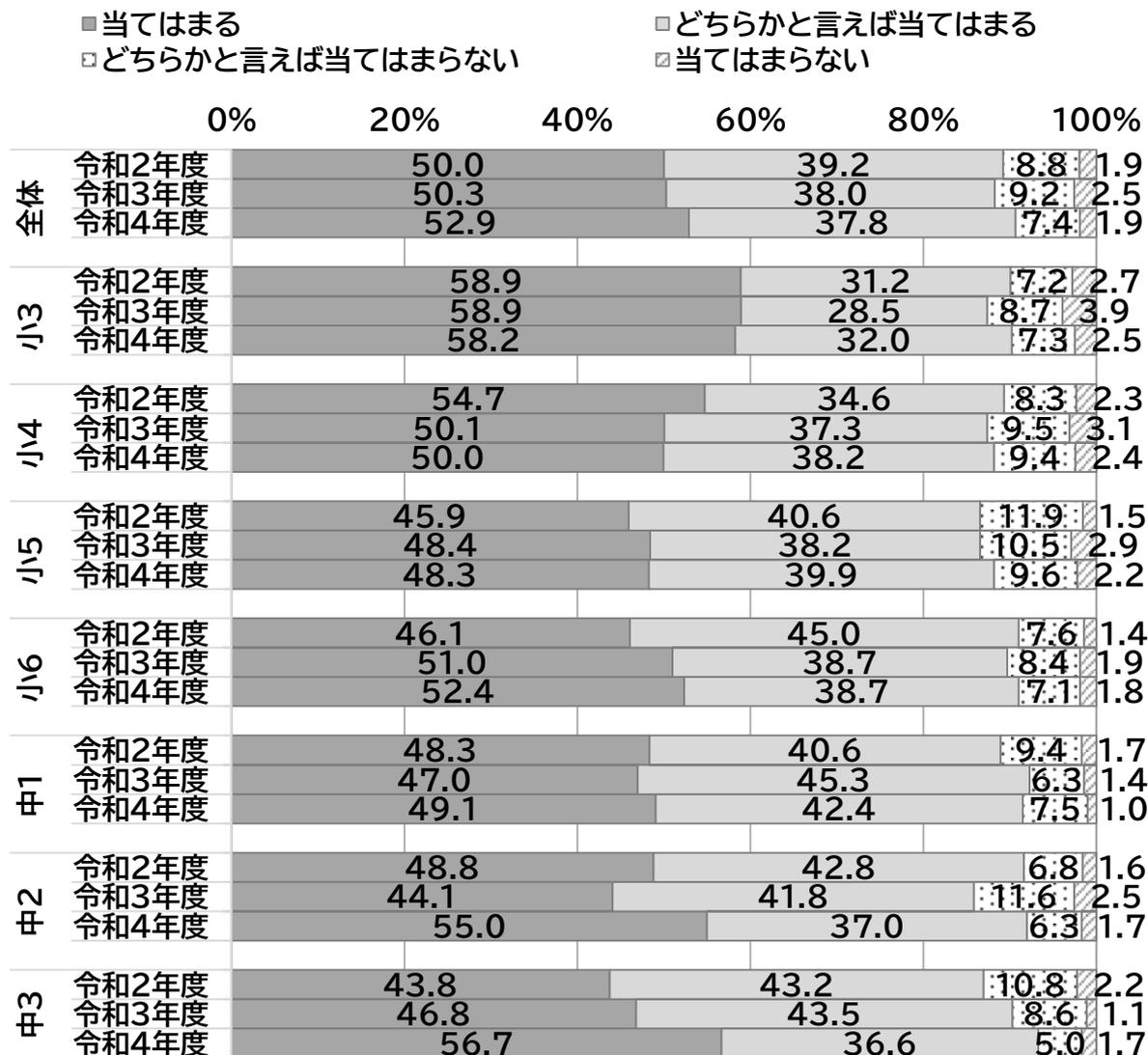


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、95.2%（前年比+2.2ポイント）でした。特に「当てはまる」の回答割合は、前年比+9.1ポイントで、肯定的な回答の割合が95%を超えました。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、4.8%（前年度比-2.1ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で肯定的な回答の割合が90%を超えました。特に小学校6年生以降の「当てはまる」が、それぞれ前年比+8.8ポイント、+10.1ポイント、+15.2ポイント、+13.7ポイントと大きく増加しました。
- 増加の要因としては、各学校でのいじめ撲滅に関する取組の充実や草加市いじめ撲滅サミットの再開等が考えられます。

(6) 人に迷惑をかけないように、やりたいことでも、がまんできる。

人に迷わくをかけないように、やりたいことでも、がまんできる。



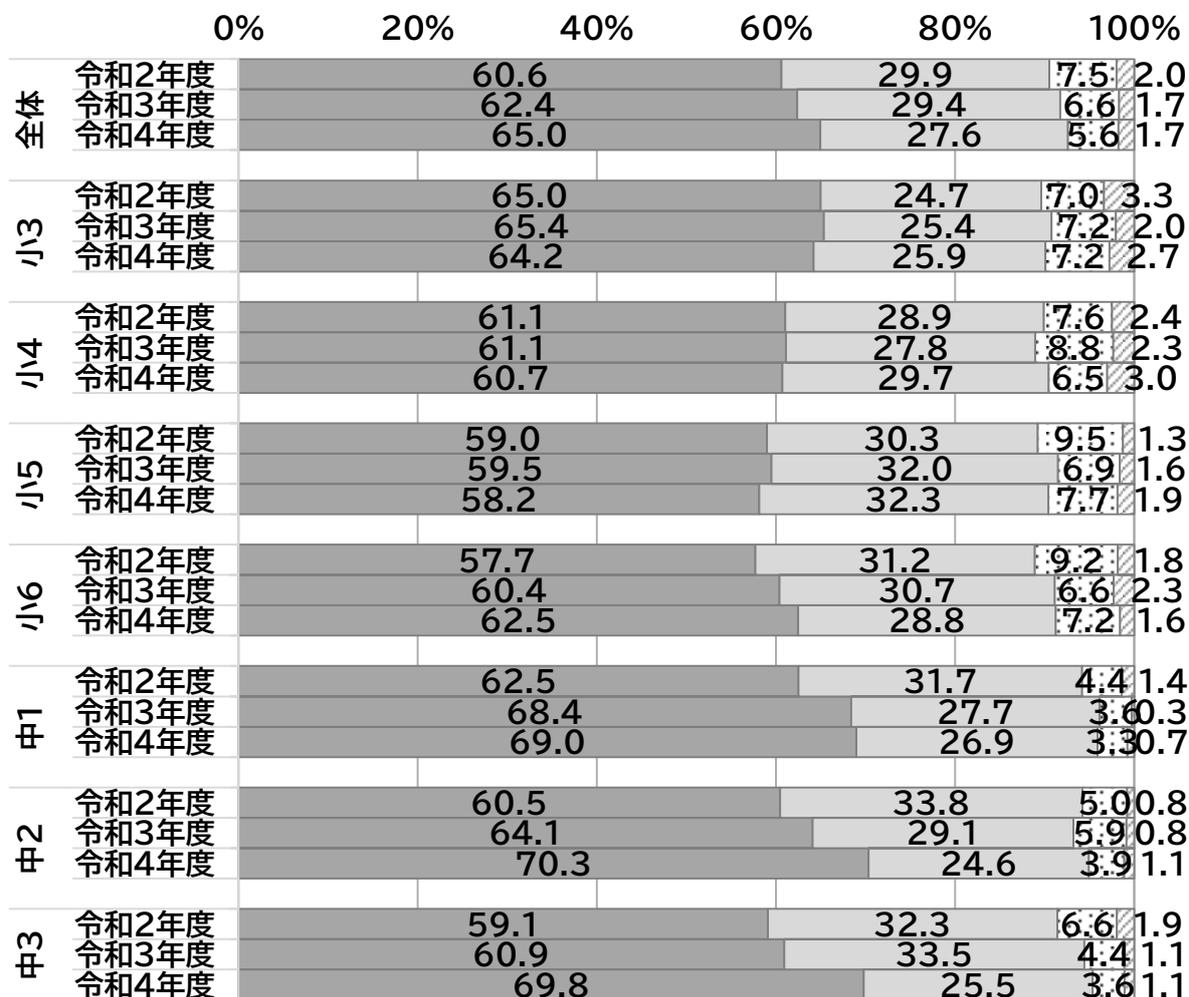
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、90.7%（前年比+2.4ポイント）と、90%を超えました。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、9.3%（前年度比-2.4ポイント）でした。
- 学年別では、特に中学校2・3年生の「当てはまる」が、それぞれ前年比+10.9ポイント、+9.9ポイント増加しました。

(7) あいさつや返事をしっかりとるようにしている。

あいさつや返事をしっかりとるようにしている。

■当てはまる □どちらかと言えば当てはまる
 □どちらかと言えば当てはまらない ■当てはまらない

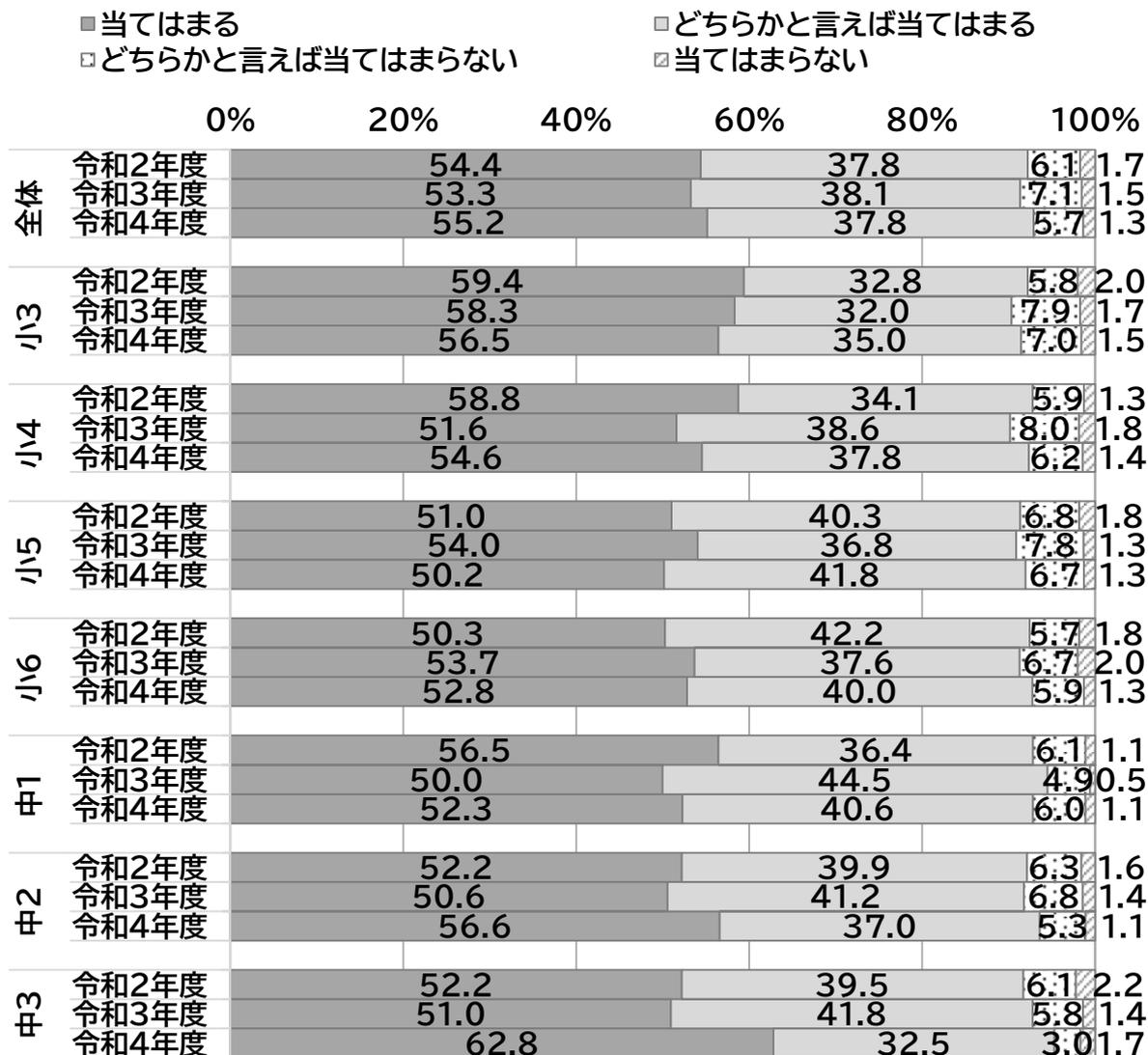


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、92.6%（前年比+0.8ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、7.3%（前年度比-1.0ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で肯定的な回答の割合が90%を超えました。特に中学校2・3年生の「当てはまる」が、それぞれ前年比+6.2ポイント、+8.9ポイント増加しました。

(8) 学校のきまりや、家の約束を守ることができる。

学校のきまりや、家の約束を守ることができる。

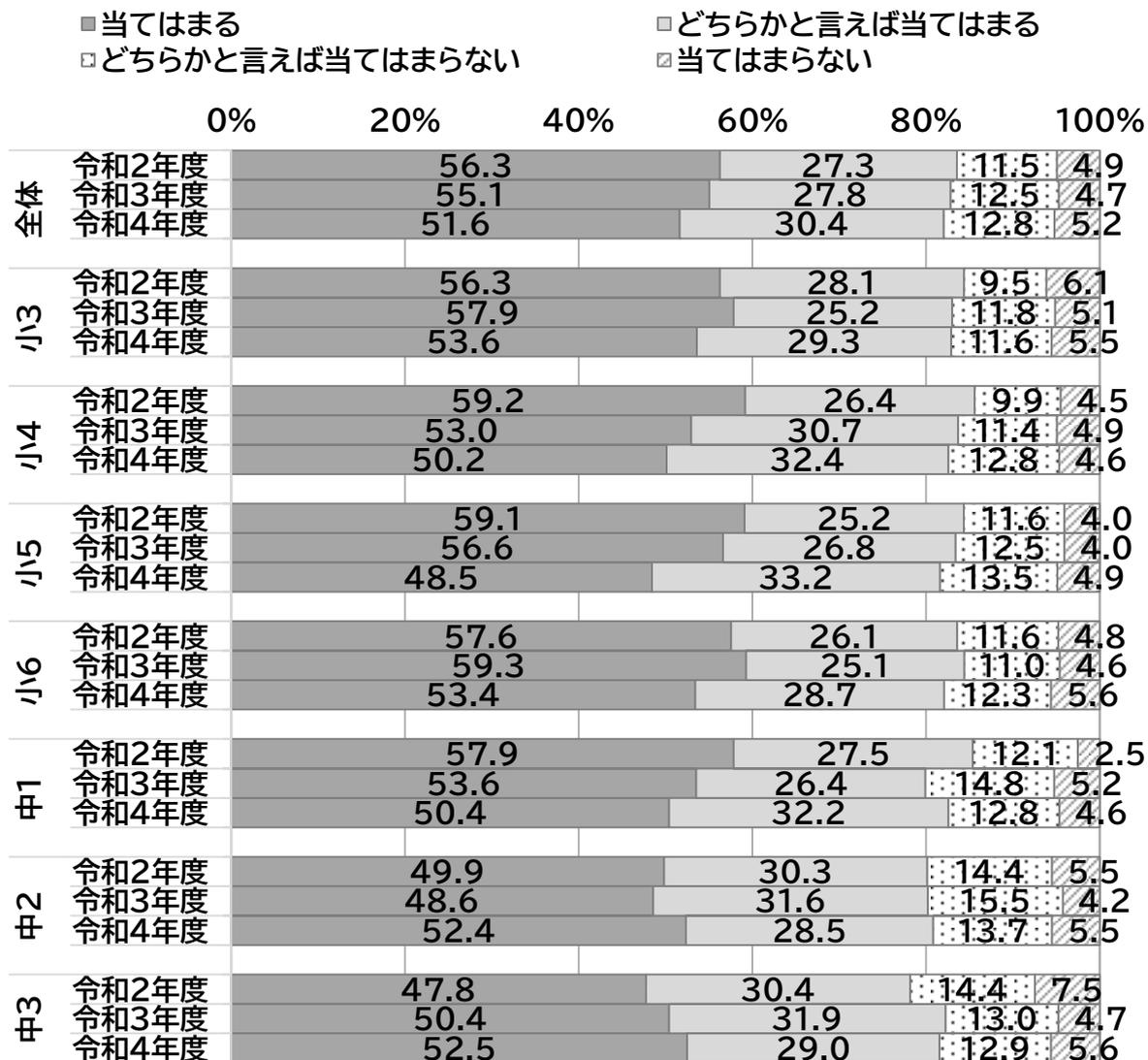


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、93.0%（前年比+1.6ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、7.0%（前年度比-1.6ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で肯定的な回答の割合が90%を超えました。特に中学校3年生では、「当てはまる」の割合が、前年比+11.8ポイントと大きく増加しました。

(9) ほぼ毎日、早寝早起きをして、朝ごはんを食べている。

ほぼ毎日、早ね早起きをして、朝ごはんを食べている。

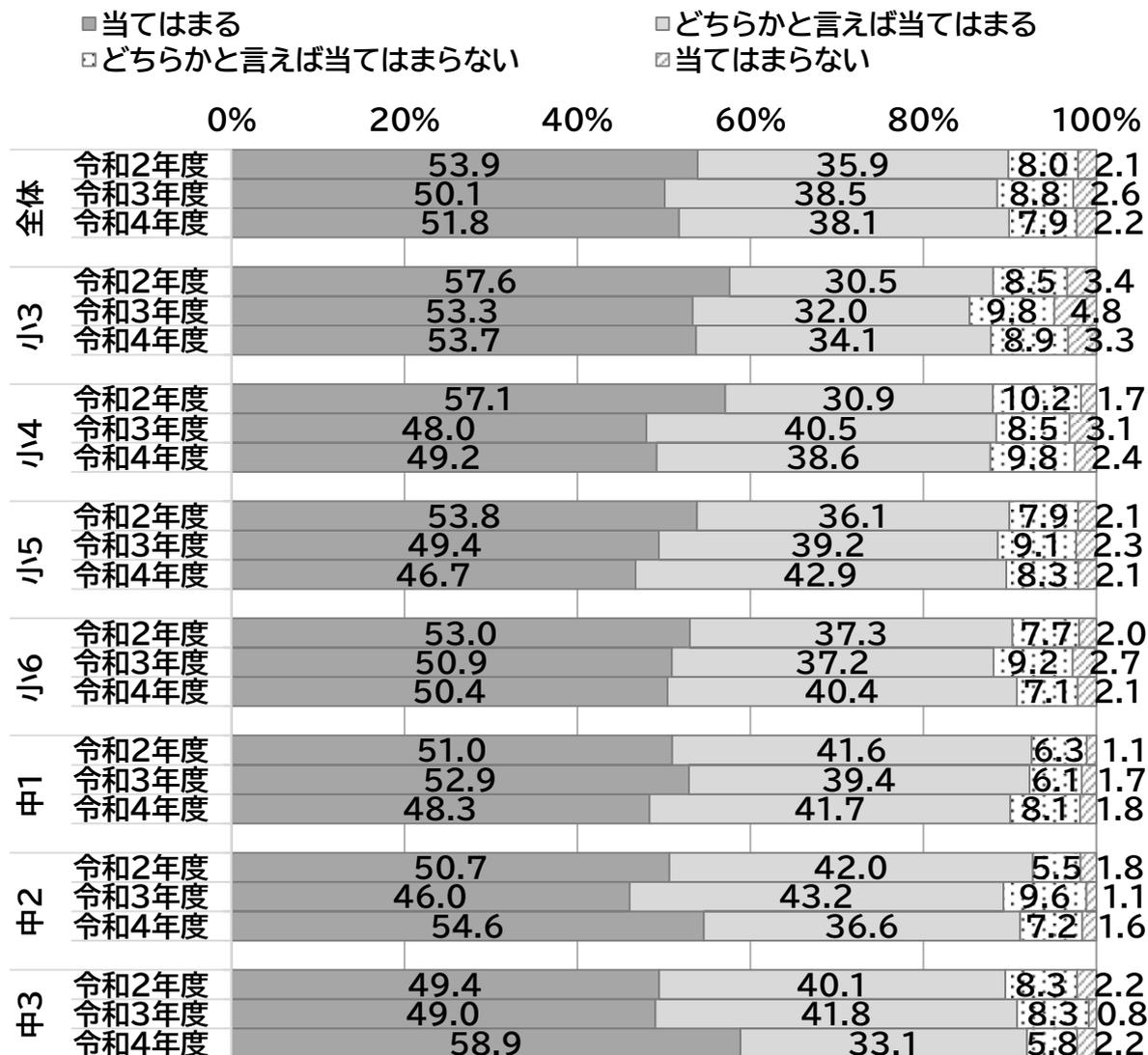


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、82.0%（前年比-0.9ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、18.0%（前年度比+0.8ポイント）でした。全体的に、下降傾向が見られます。
- 学年別では、小学校3年生から中学校1年生まで、「当てはまる」の割合が減少しました。特に小学校5年生では、前年比-8.1ポイントと大きく減少しました。
- 減少の要因としては、コロナ禍の影響により、放課後や休日の家庭生活のリズムが崩れてきていることが推測されます。また、小学生の方が、中学生よりも家庭で過ごす時間が長いことから、より大きく減少していると推測されます。

(10) 決められた時間を守ることができる。

決められた時間を守ることができる。

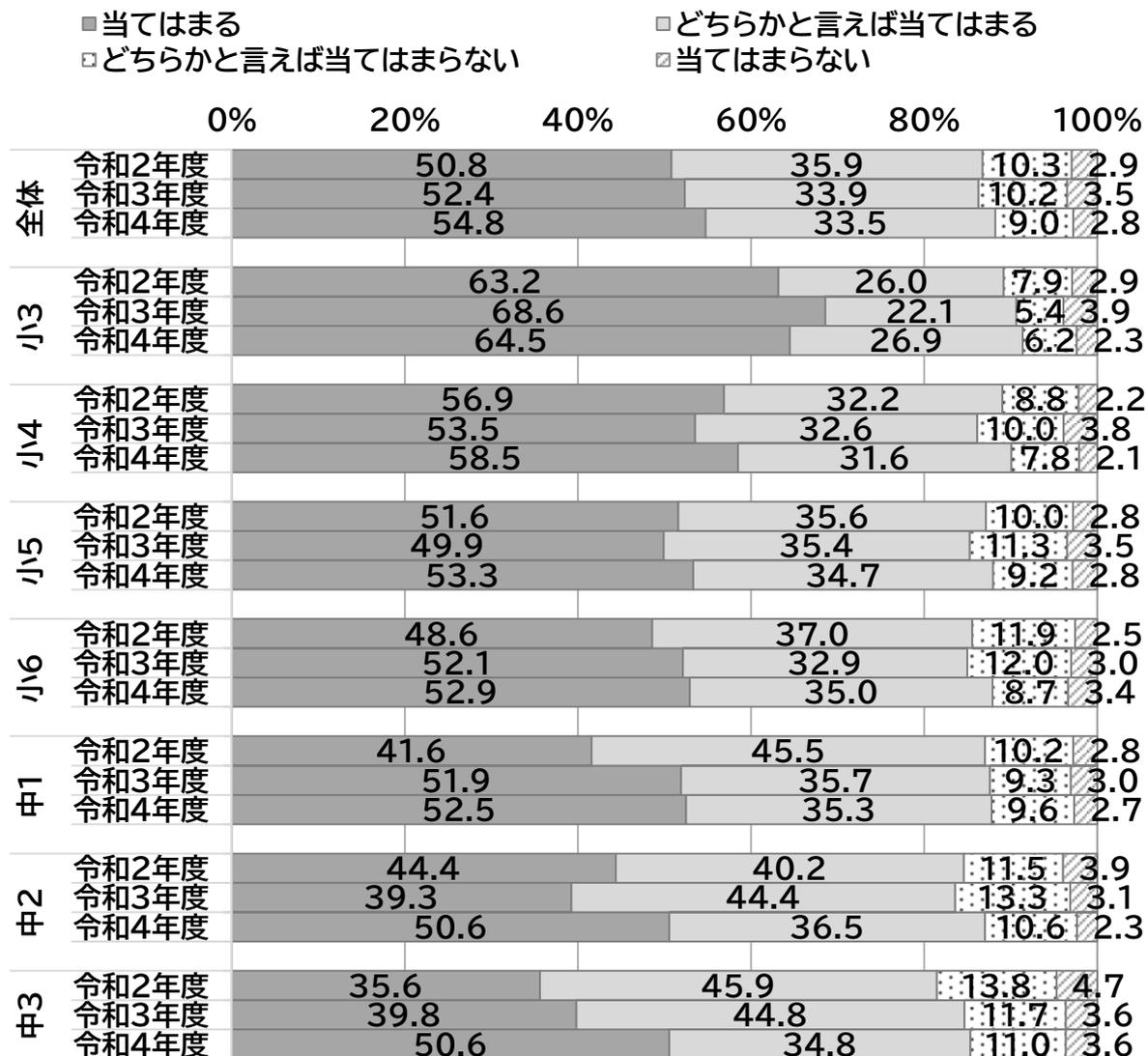


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、89.9%（前年比+1.3ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、10.1%（前年度比-1.3ポイント）でした。
- 学年別では、特に中学校2・3年生の「当てはまる」の割合が、それぞれ前年比+8.6ポイント、+9.9ポイントと大きく増加しました。

(11) めあてや目標をもって学習や運動に取り組んでいる。

めあてや目標をもって学習や運動に取り組んでいる。

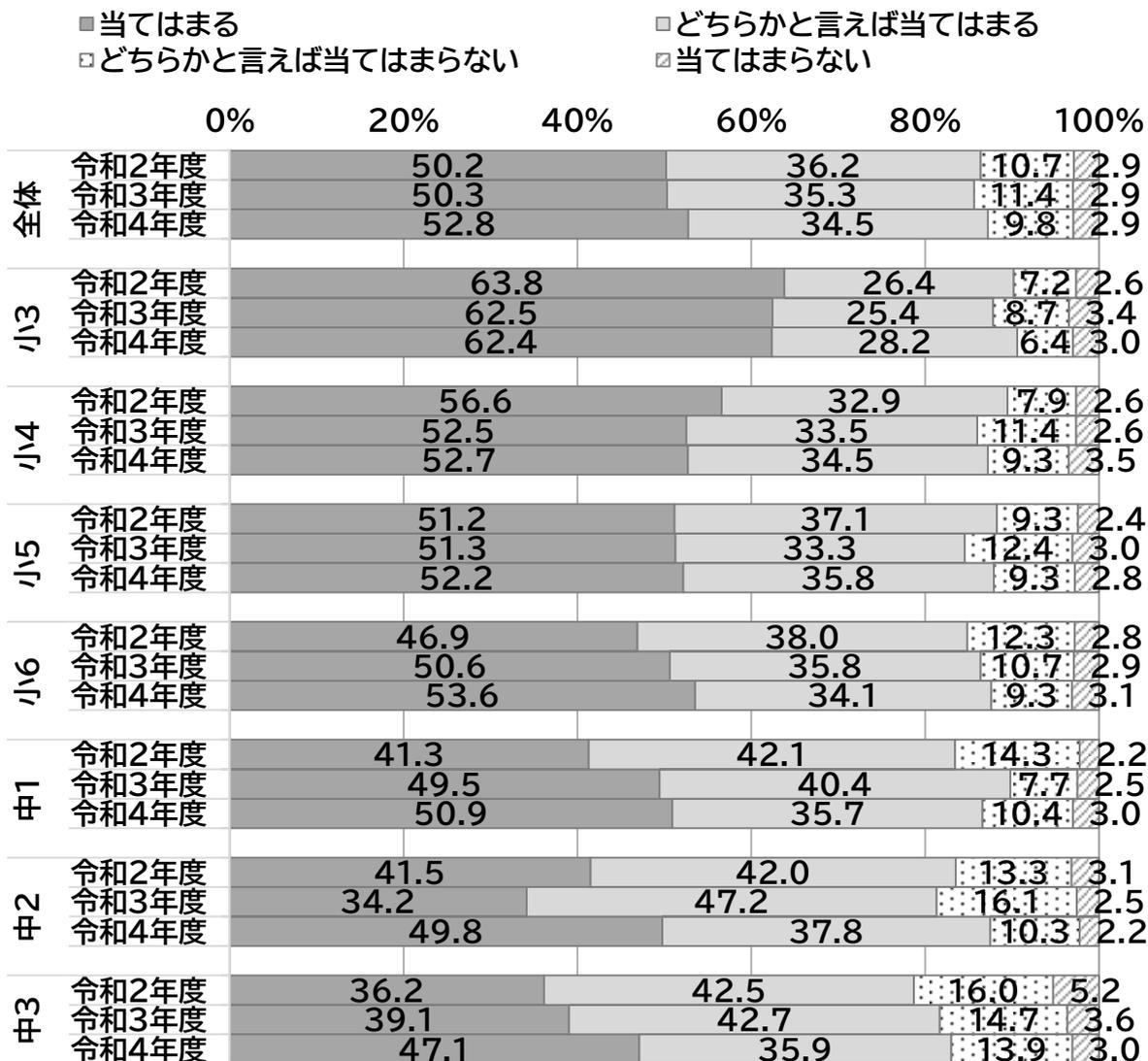


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、88.3%（前年比+2.0ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、11.8%（前年度比-1.9ポイント）でした。
- 学年別では、特に中学校2・3年生の「当てはまる」の割合が、それぞれ前年比+11.3ポイント、+10.8ポイントと大きく増加しました。

(12) すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むようにしている。

すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むようにしている。

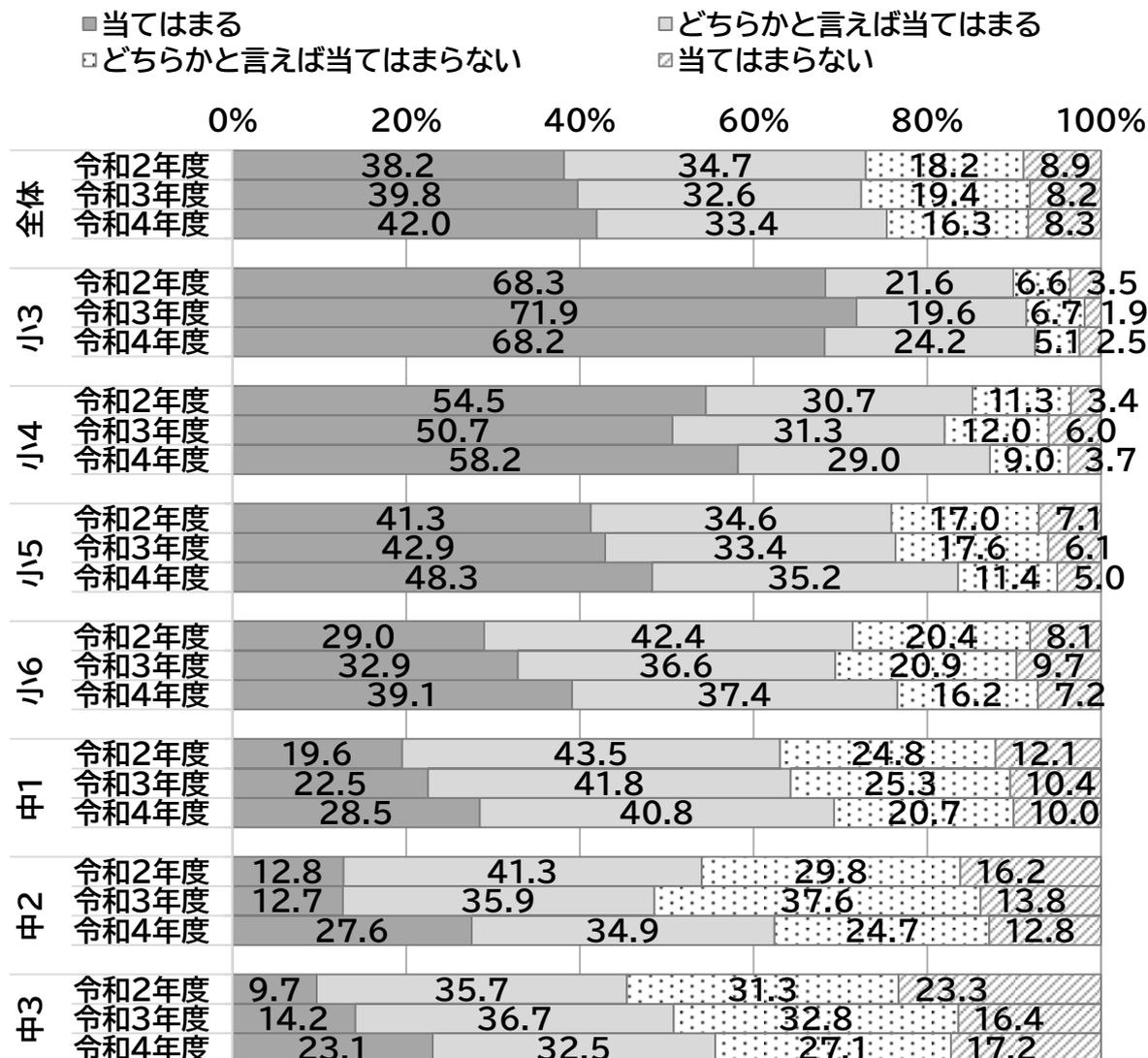


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、87.3%（前年比+1.7ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、12.7%（前年度比-1.6ポイント）でした。
- 学年別では、特に中学校2・3年生の「当てはまる」の割合が、それぞれ前年比+15.6ポイント、+8.0ポイントと大きく増加しました。

(13) 授業などを通して、草加について学ぶことは楽しい。

授業などを通して、草加について学ぶことは楽しい。

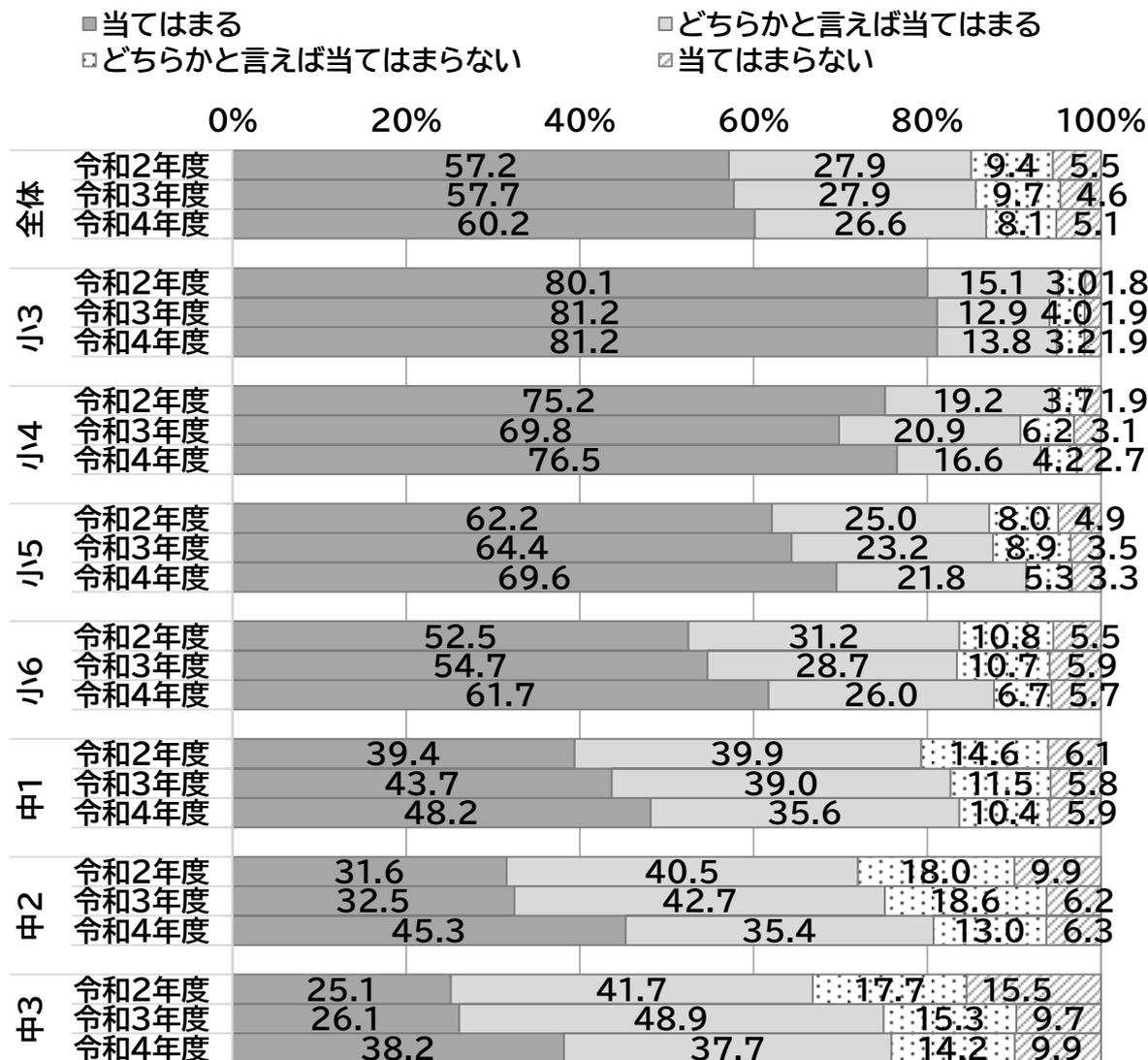


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、75.4%（前年比+3.0ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、24.6%（前年度比-3.0ポイント）でした。
- 学年別では、小学校4年生以降の学年で、「当てはまる」の割合が大きく増加しました。特に中学校2年生では、前年比+14.9ポイントと大きく増加しました。
- 増加の要因としては、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組んでいること等が考えられます。

(14) 草加のまちが好きだ。

草加のまちが好きだ。

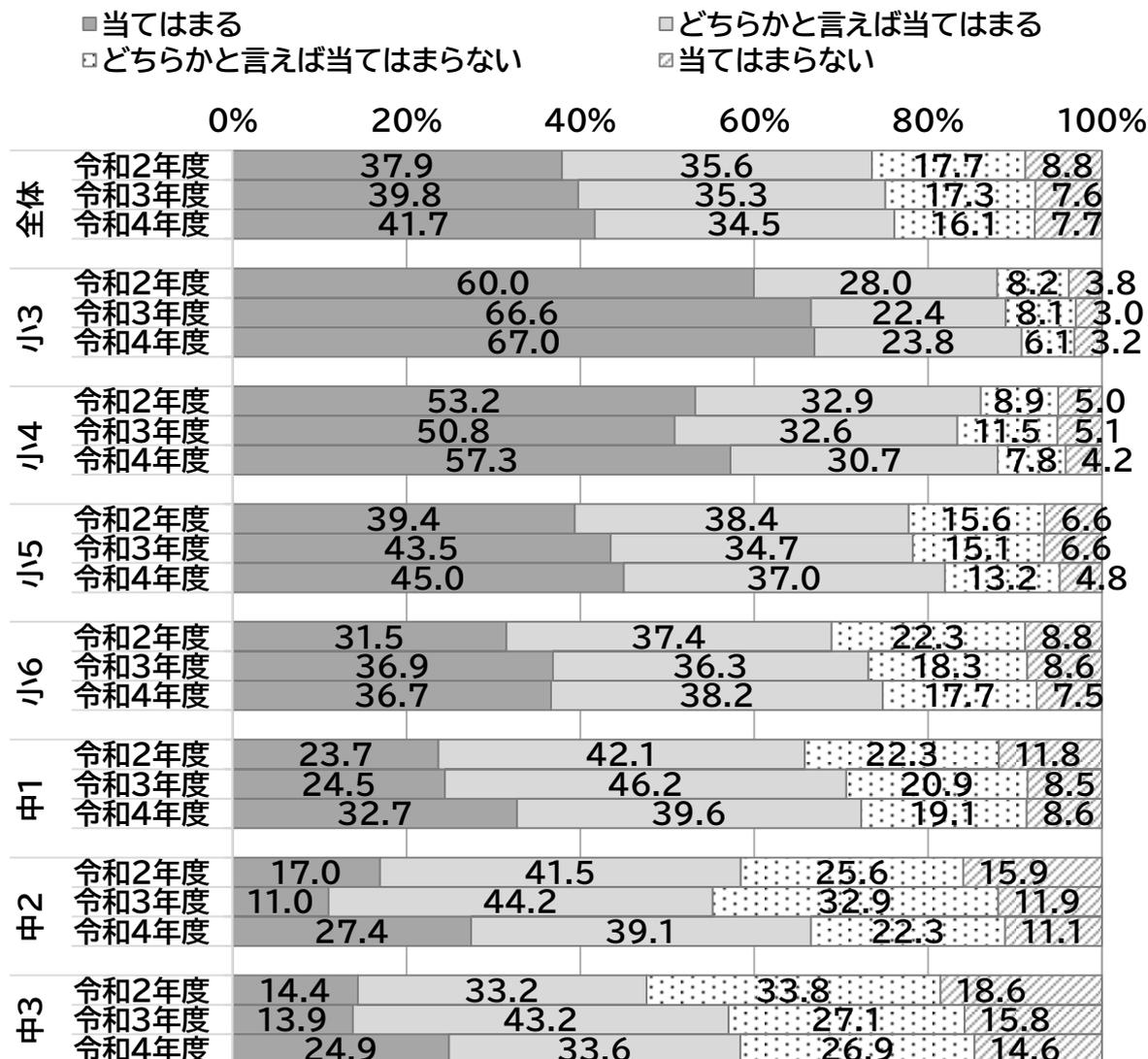


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、86.8%（前年比+1.2ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、13.2%（前年度比-1.1ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で、肯定的な回答の割合が昨年度より増加しました。特に、小学校6年生、中学校2・3年生の「当てはまる」の割合は、それぞれ前年比+7.0ポイント、+12.8ポイント、+12.1ポイントと大きく増加しました。
- ふるさと草加学習の充実に伴い、草加のまちが好きな児童生徒が育っている様子が伺えます。

(15) 自分が住む地域や、草加の役に立つことをしてみたい。

自分が住む地いきや、草加の役に立つことをしてみたい。



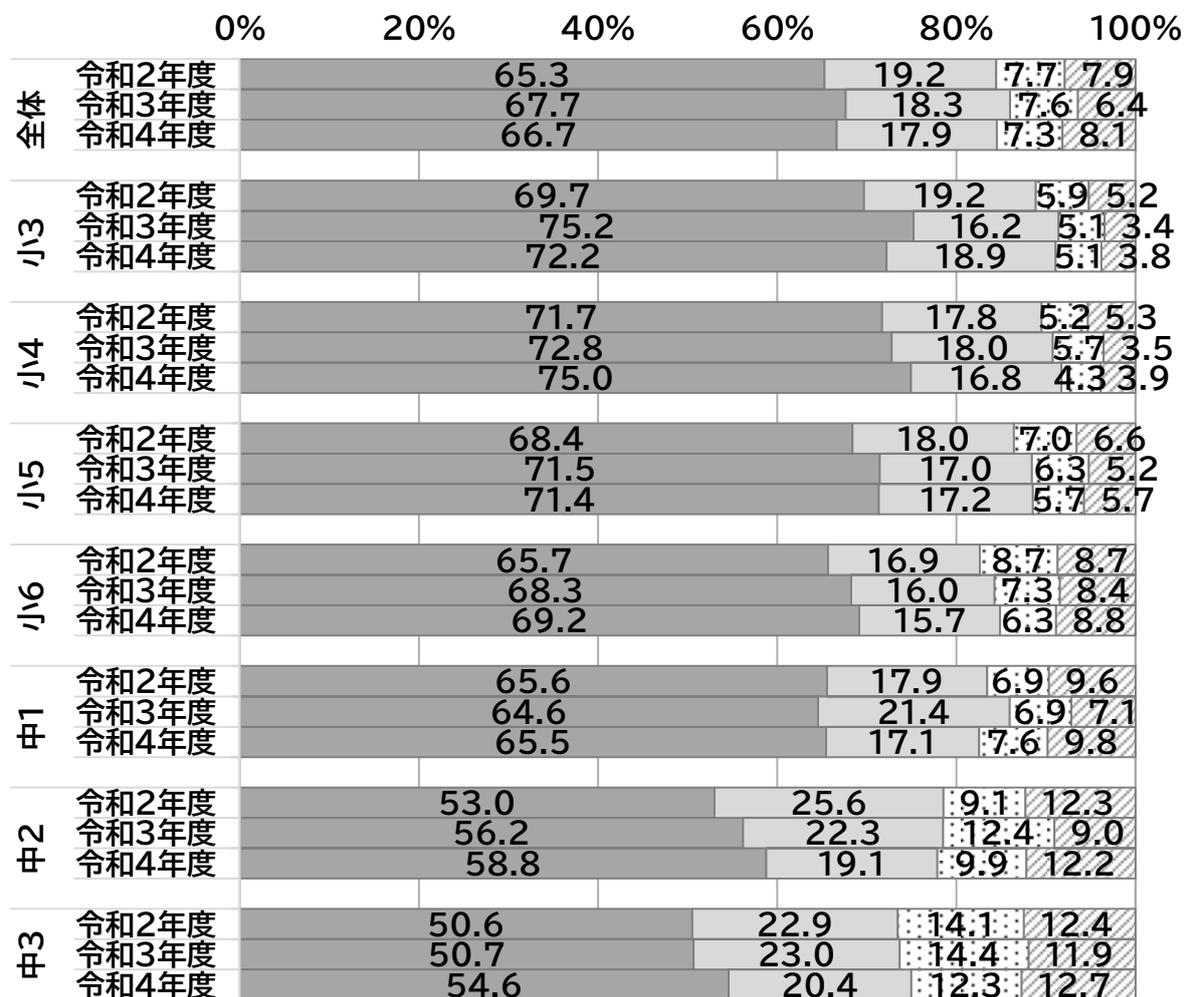
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、76.2%（前年比+1.1ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、23.8%（前年度比-1.1ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で、肯定的な回答の割合が昨年度より増加しました。特に中学校2・3年生の「当てはまる」の割合は、それぞれ前年比+16.4ポイント、+11.0ポイントと大きく増加しました。
- ふるさと草加学習の充実に伴い、草加の役に立つことをしてみたい児童生徒が育っている様子が伺えます。

(16) になりたい職業や将来の夢があったり、目標にする人がいたりする。

になりたい職業や将来の夢があったり、目標にする人がいたりする。

- 当てはまる
- どちらかと言えば当てはまらない
- どちらかと言えば当てはまる
- 当てはまらない



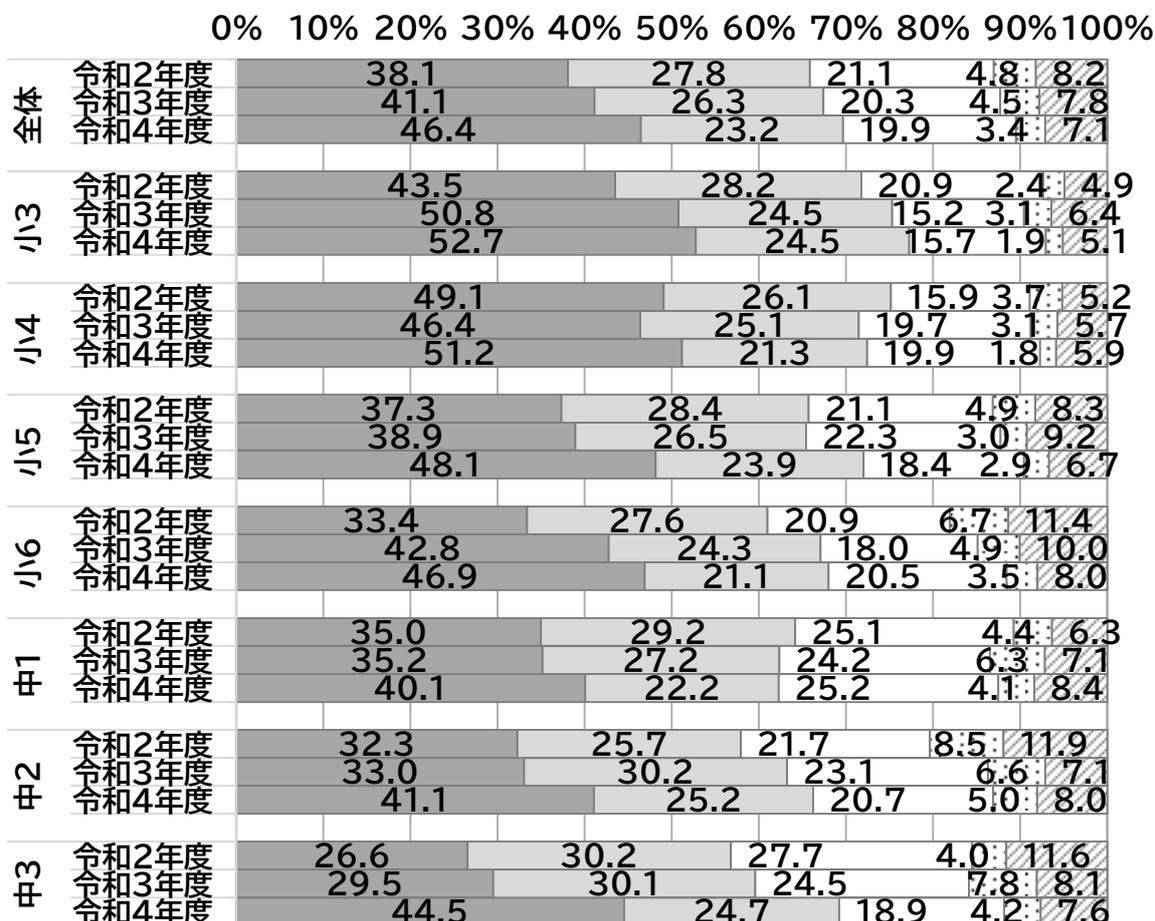
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、84.6%（前年比-1.4ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、15.4%（前年度比+1.4ポイント）でした。

(17) 自分には、よいところ(長所)があると思う。

自分には、よいところ(長所)があると思う。

- 当てはまる
- どちらかといえば当てはまる
- どちらともいえない
- どちらかといえば当てはまらない
- ▨ 当てはまらない



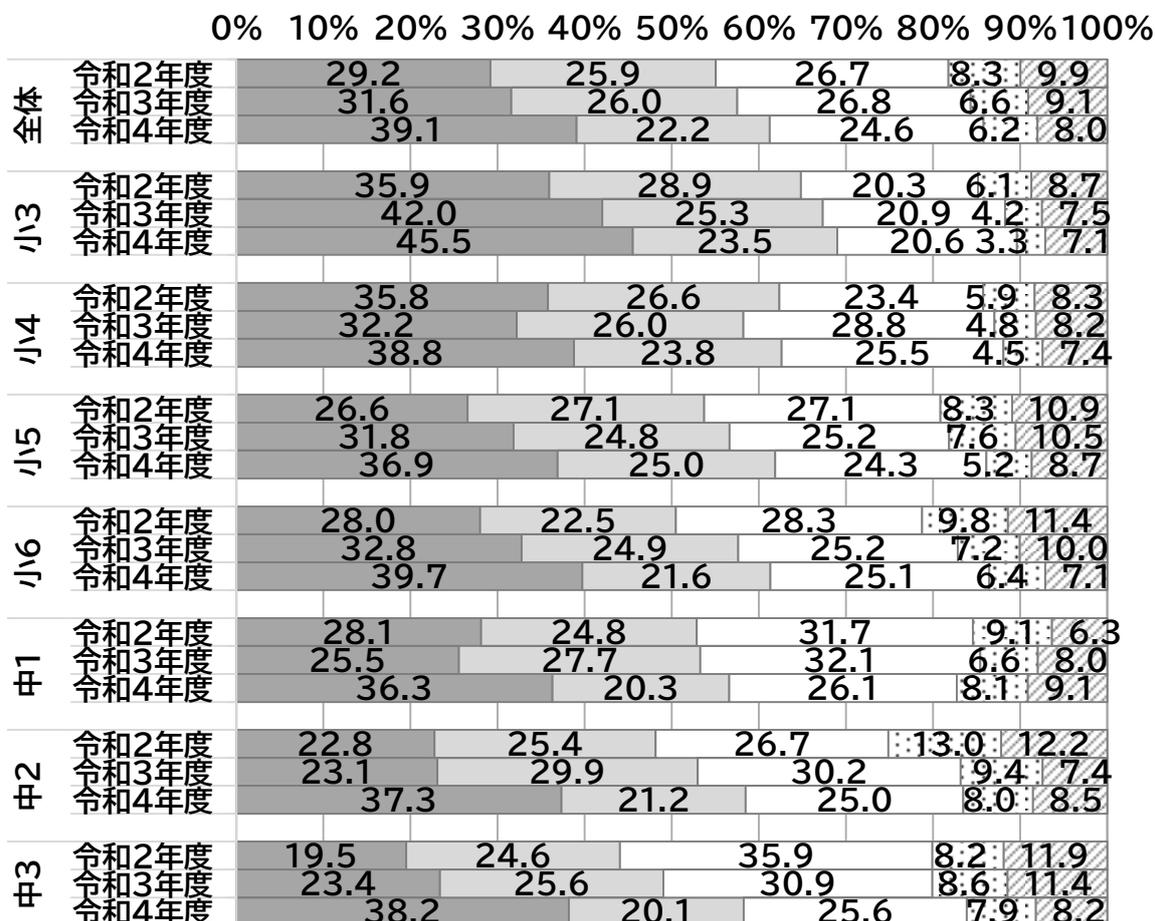
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」）の割合は、69.6%（前年比+2.2ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかといえば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、10.5%（前年度比-1.8ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で、「当てはまる」の割合が昨年度より増加しました。特に中学校2・3年生では、それぞれ前年比+8.1ポイント、+15.0ポイントと大きく増加しました。

(18) 自分は、周りの人と同じくらい価値のある人間だと思う。

自分は、周りの人と同じくらい、価値のある人間だと思う。

- 当てはまる
- どちらかと言えば当てはまる
- どちらともいえない
- どちらかと言えば当てはまらない
- 当てはまらない



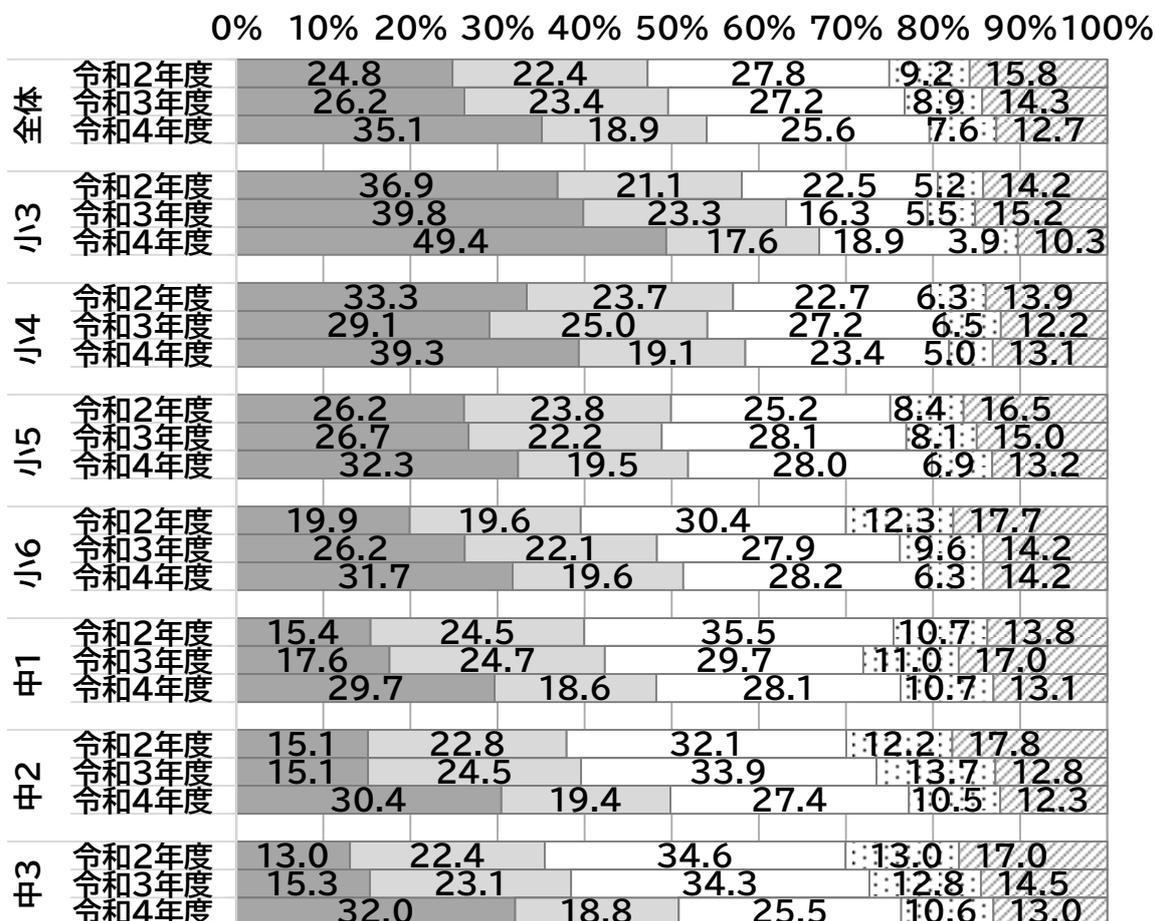
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、61.3%（前年比+3.7ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、14.2%（前年度比-1.5ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で、「当てはまる」の割合が昨年度より増加しました。特に小学校6年生以降では、それぞれ前年比+6.9ポイント、+10.8ポイント、+14.2ポイント、+14.8ポイントと大きく増加しました。

(19) 自分のことを好きだと思う。

自分のことを好きだと思う。

- 当てはまる
- どちらともいえない
- ▣ 当てはまらない
- どちらかと言えば当てはまる
- どちらかと言えば当てはまらない



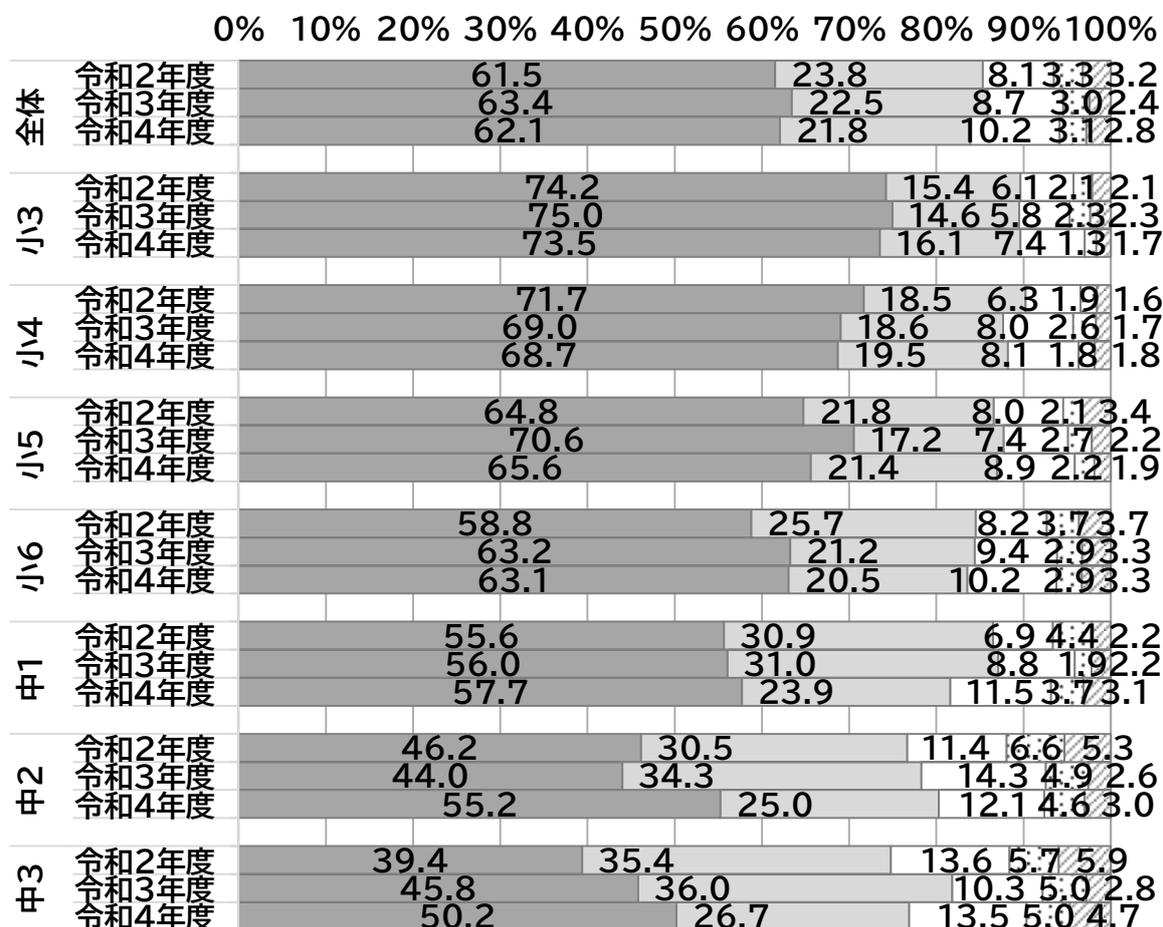
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、54.0%（前年比+4.4ポイント）でした。特に、「当てはまる」の割合が前年比+8.9ポイントと大きく増加しました。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、20.3%（前年度比-2.9ポイント）でした。
- 学年別では、全ての学年で、「当てはまる」の割合が昨年度より大きく増加しました。特に中学校2・3年生では、それぞれ前年比+15.3ポイント、+16.7ポイントと大きく増加しました。

(20) 難しいことでも、努力を続ければ、いつかできると思う。

むずかしいことでも、努力を続ければ、いつかできると思う。

- 当てはまる
- どちらともいえない
- ▣ 当てはまらない
- どちらかと言えば当てはまる
- どちらかと言えば当てはまらない



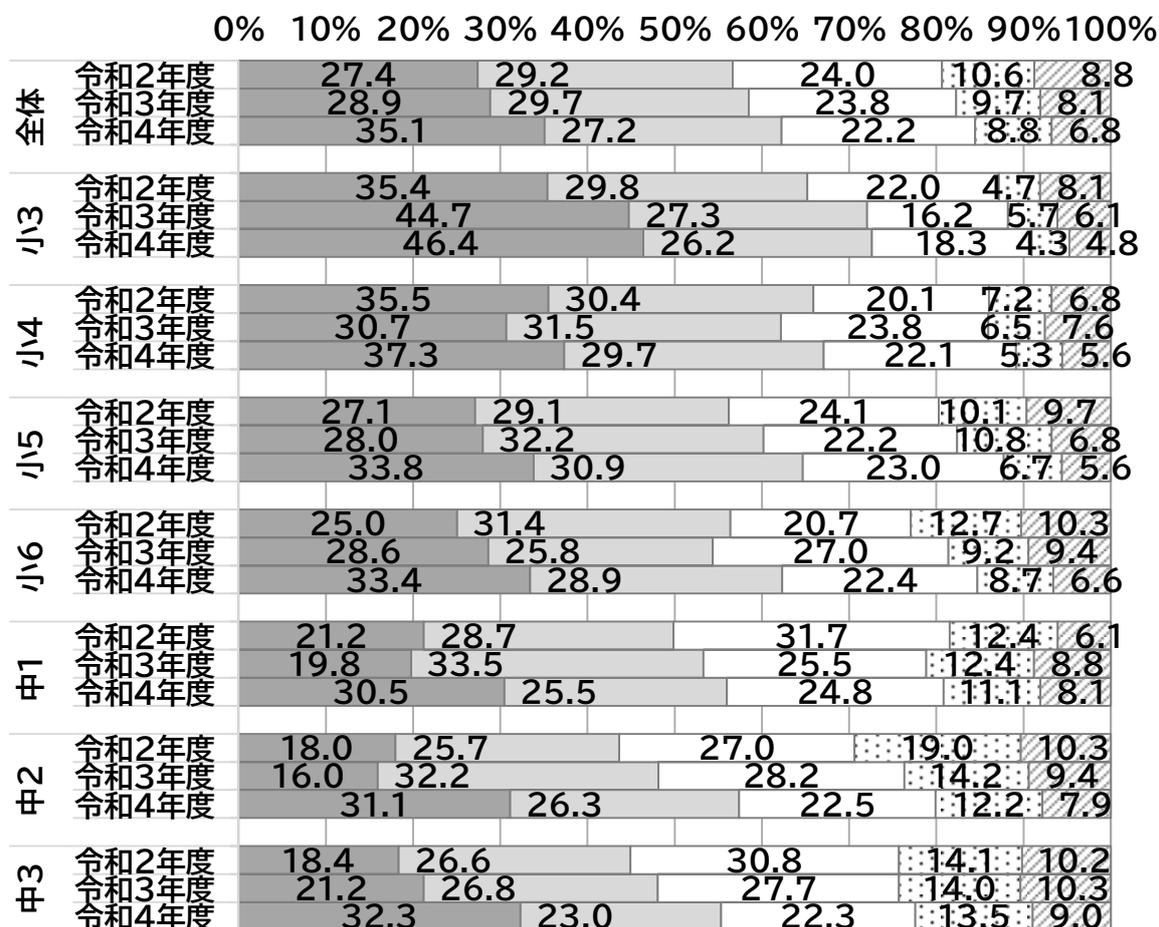
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、83.9%（前年比-2.0ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、5.9%（前年度比+0.5ポイント）でした。
- 学年別では、特に中学校2年生で「当てはまる」の割合が、それぞれ前年比+11.2ポイントと大きく増加しました。

(21) 自分は、物事を周りの人と同じくらいうまくやれると思う。

自分は、物事を周りの人と同じくらいうまくやれると思う。

- 当てはまる
- どちらともいえない
- ▣ 当てはまらない
- ▢ どちらかと言えば当てはまる
- ▤ どちらかと言えば当てはまらない



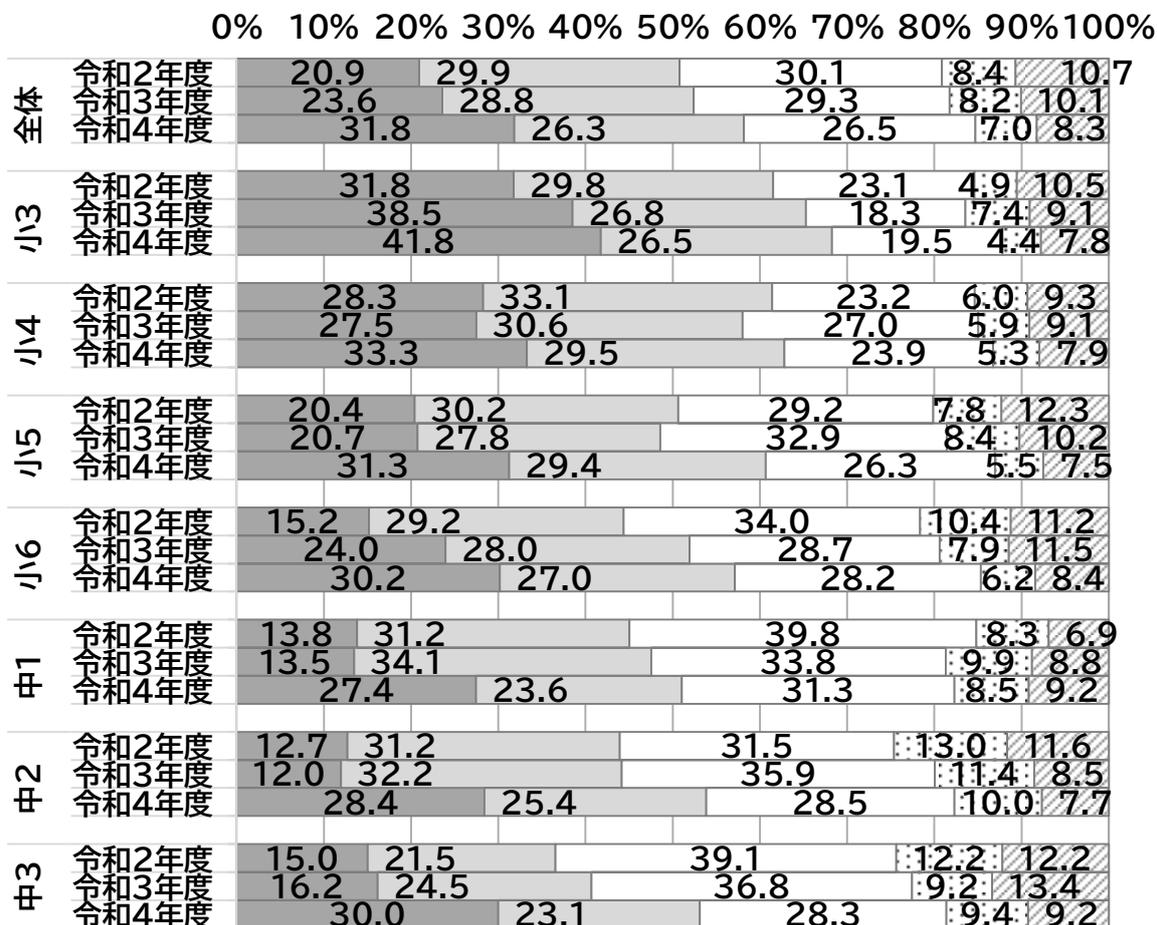
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、62.3%（前年比+3.7ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、15.6%（前年度比-2.2ポイント）でした。
- 学年別では、中学校1年生以降の「当てはまる」の割合が、それぞれ前年比+10.7ポイント、+15.1ポイント、+11.1ポイントと大きく増加しました。

(22) 自分は、人の役に立っていると思う。

自分は、人の役に立っていると思う。

- 当てはまる
- どちらともいえない
- ▣ 当てはまらない
- どちらかと言えば当てはまる
- ▣ どちらかと言えば当てはまらない

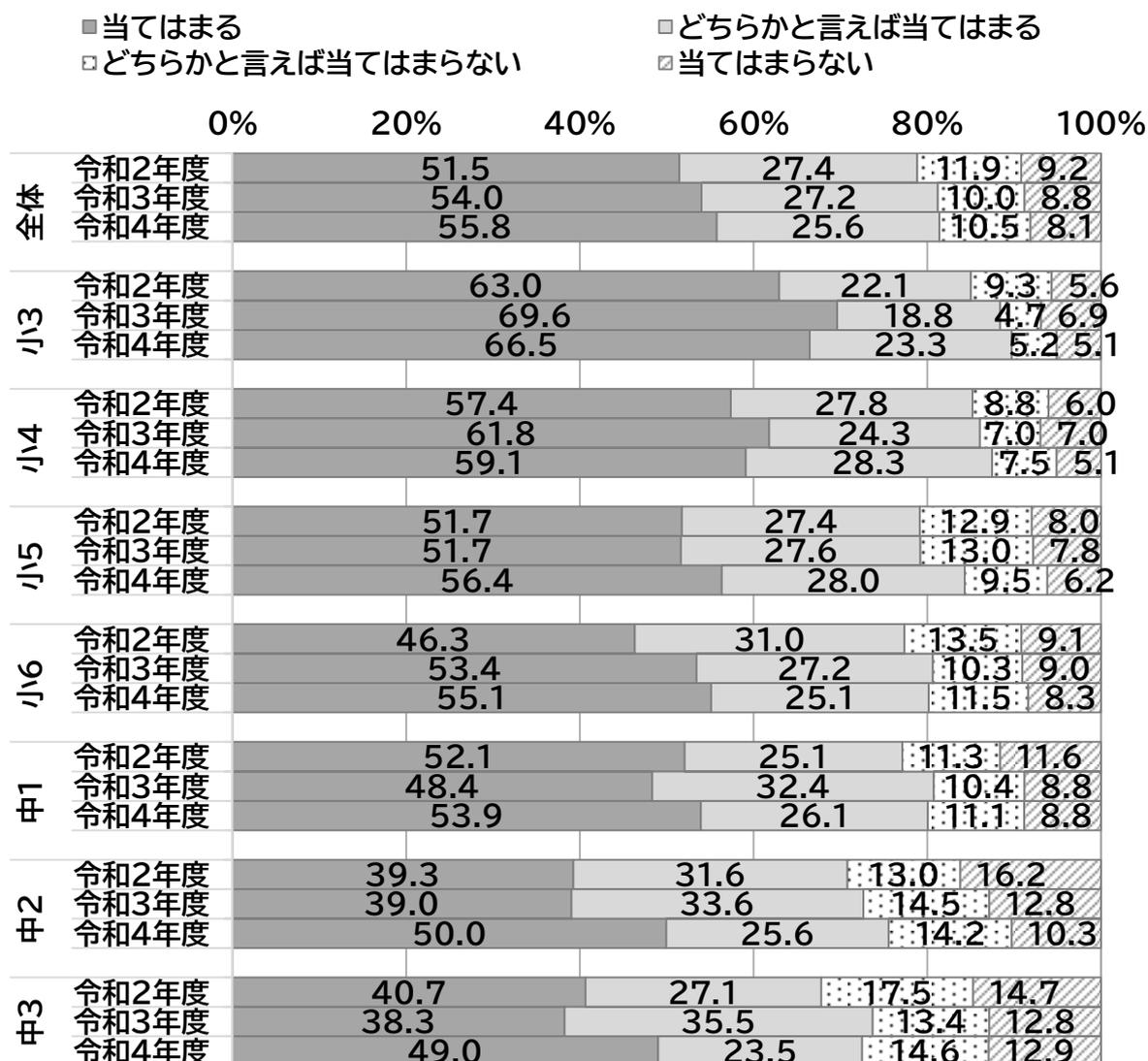


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、58.1%（前年比+5.7ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、15.3%（前年度比-3.0ポイント）でした。
- 学年別では、小学校5年生及び中学校1年生以降で「当てはまる」の割合が、それぞれ前年比+10.6ポイント、+13.9ポイント、+16.4ポイント、+13.8ポイントと大きく増加しました。

(23) 中学生（小学生）や園児と交流することは、楽しみだ。

中学生(小学生)や園児と交流することは、楽しみだ。



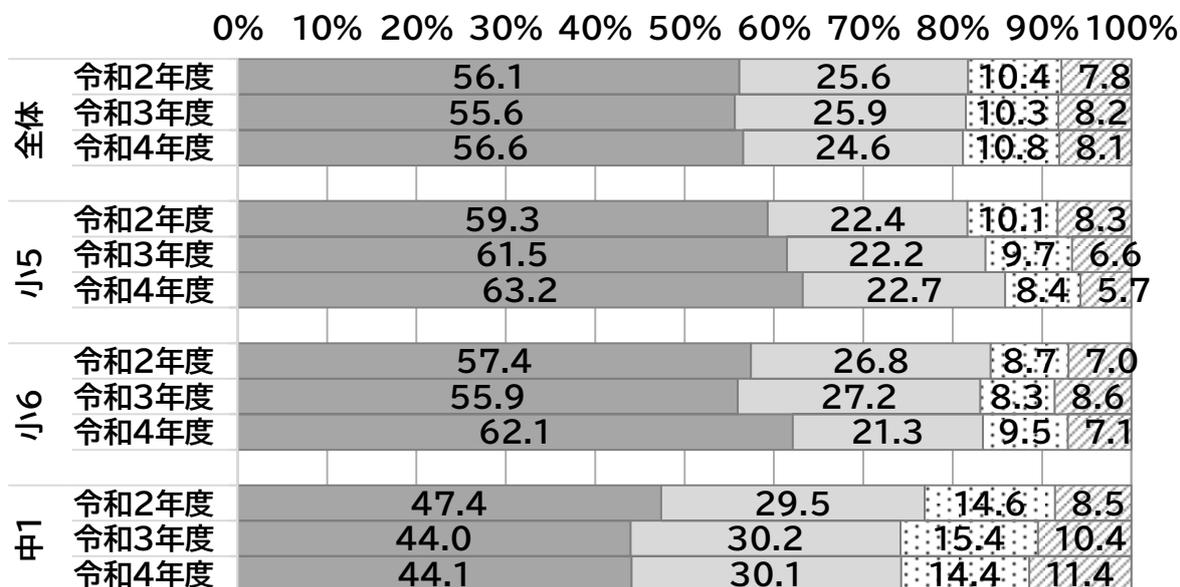
※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、81.4%（前年比+0.2ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、18.6%（前年度比-0.2ポイント）でした。
- 学年別では、特に中学校2・3年生で「当てはまる」の割合が、それぞれ前年比+11.0ポイント、+10.7ポイントと大きく増加しました。

(25) 中学校へ進学することは楽しみだ(楽しみだった)。(対象：小5、小6、中1)

中学校へ進学することは楽しみだ(楽しみだった)。

- 当てはまる
- どちらかと言えば当てはまる
- どちらかと言えば当てはまらない
- 当てはまらない



※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答（「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」）の割合は、81.2%（前年比-0.3ポイント）でした。否定的な回答（「どちらかと言えば当てはまらない」と「当てはまらない」）の割合は、18.9%（前年比+0.4ポイント）でした。
- 学年では、特に小学校6年生で「当てはまる」の割合が、前年比+6.2ポイントと増加しました。

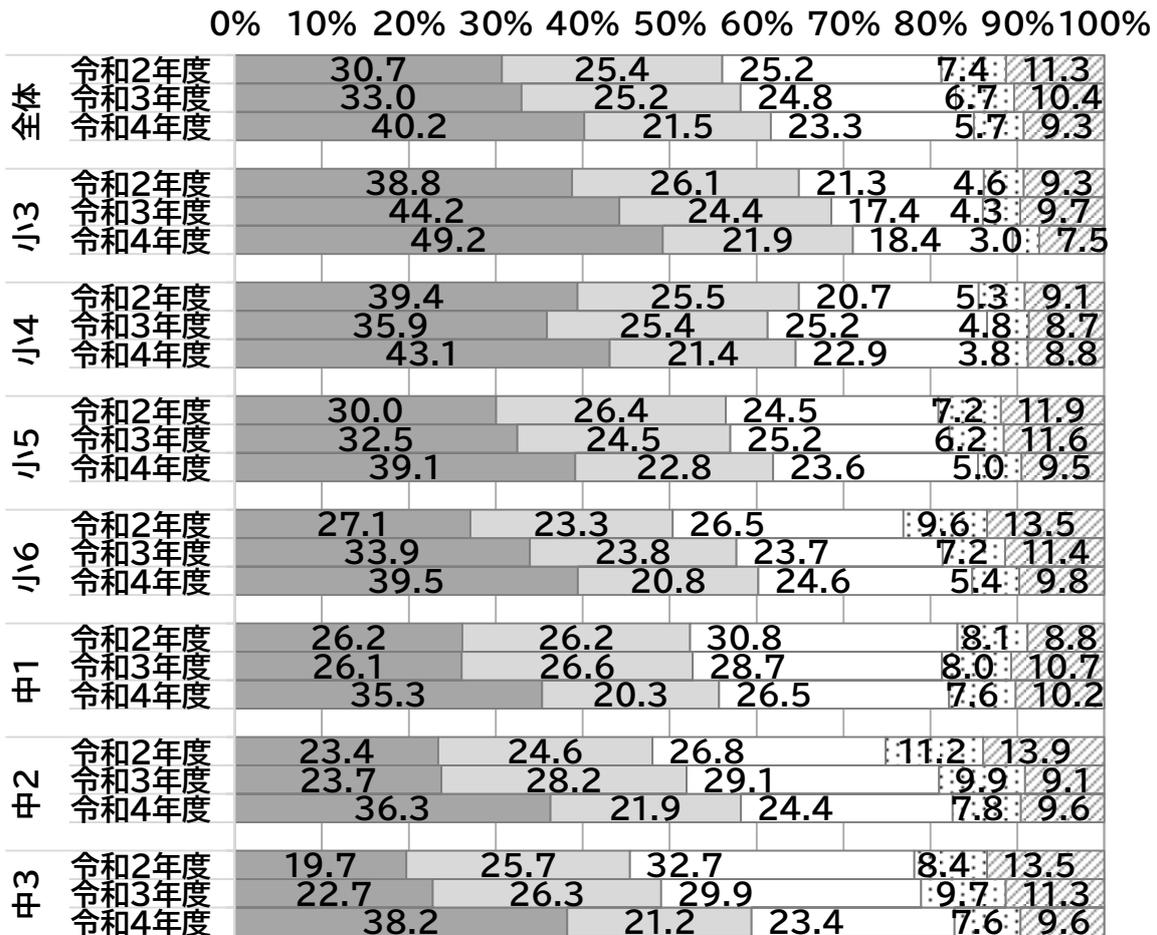
2 自己肯定感・自己有用感に関する分析

(1) 自己肯定感・自己有用感に関する設問の単純集計

自己肯定感に関する設問 (2)-(1)~(3)) と、自己有用感に関する設問 (2)-(4)~(6)) の回答について、それぞれの回答を単純集計した結果は、次のとおりです。

自己肯定感

- 当てはまる
- どちらともいえない
- ▣ 当てはまらない
- ▨ どちらかと言えば当てはまる
- ▩ どちらかと言えば当てはまらない

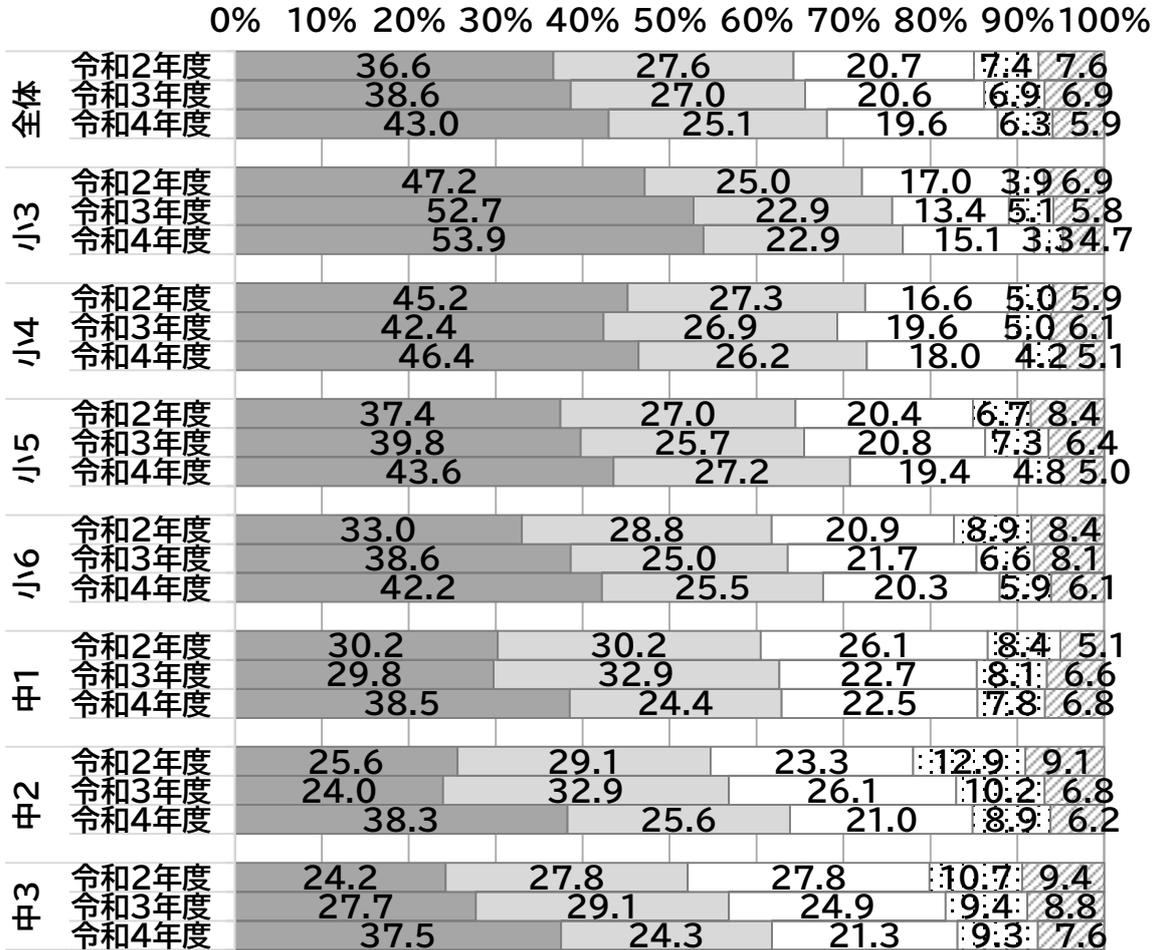


※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答割合は、61.7%（前年比+3.5ポイント）でした。特に「当てはまる」の回答割合が前年比+7.2ポイントと大きく増加しました。否定的な回答割合は、15.0%（前年比-2.1ポイント）でした。
- 学年別に見ると、中学校1年生以降で、特に「当てはまる」が大きく増加しています。以下の要因が推測できます。
 - 学校行事や部活動等が再開されてきて、自己の能力を発揮する場面が増えた。
 - 電子回答のため、他者の目を気にせずに回答することができた。
- 一般的に自己肯定感は、学年が上がるにつれて減少する傾向があります。今年度の調査結果では、中学校1年生から中学校3年生まで肯定的な回答割合が増加しており、草加市の実態の特徴が現れていると考えられます。

自己有用感

- 当てはまる
- どちらともいえない
- ▣ 当てはまらない
- ▨ どちらかと言えば当てはまる
- ▩ どちらかと言えば当てはまらない



※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

- 全体では、肯定的な回答割合は、68.1%（前年比+2.5ポイント）でした。否定的な回答割合は、12.2%（前年比-1.6ポイント）でした。
- 学年別に見ると、中学校1学年以降の学年で、「当てはまる」が大きく増加しています。自己肯定感と同様の要因が推測できます。
- 一般的に自己有用感は、学年が上がるにつれて減少する傾向があります。今年度の調査結果は、中学校1年生から中学校3年生まで肯定的な回答割合がほぼ一定で減少しておらず、草加市の実態の特徴が現れていると考えられます。

(2) 児童生徒一人ひとりの自己肯定感・自己有用感の点数化

自己肯定感と自己有用感について、それぞれ関係する設問（(17)～(19)及び(20)～(22)）の選択肢を次のとおり点数化して平均値を求め、小数第1位を四捨五入して児童生徒一人ひとりの自己肯定感と自己有用感を+2から-2までの整数値で点数化しました。

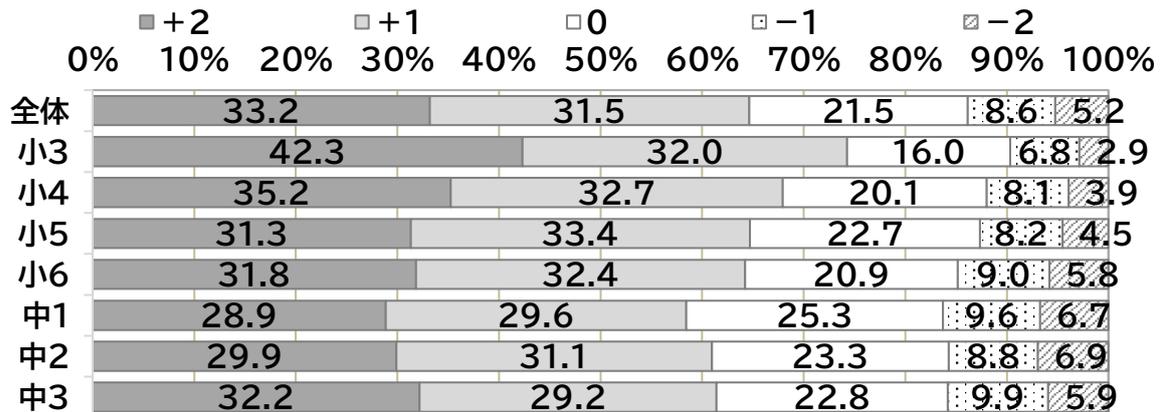
選択肢	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらともいえない	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
点数	+2	+1	0	-1	-2

例えば、次のように回答した児童生徒の自己肯定感・自己有用感の点数は、それぞれ2、1になります。

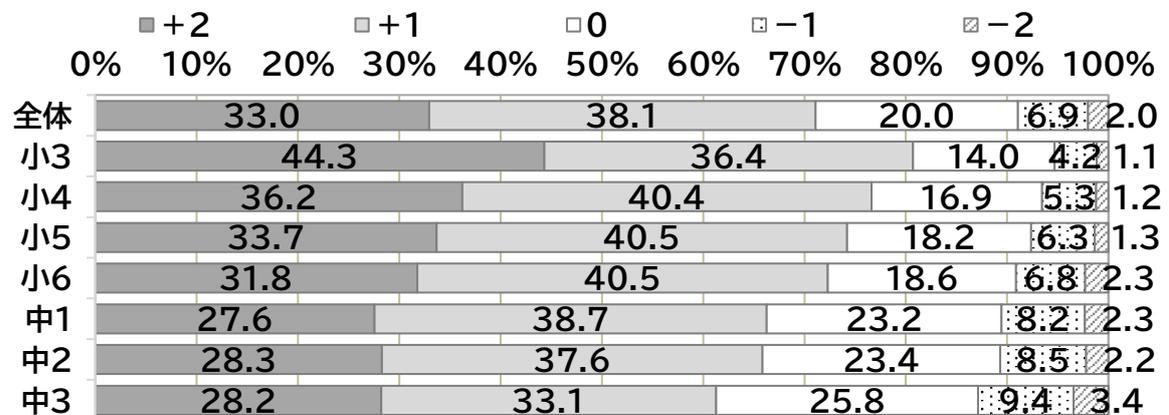
	設問	回答	点数	平均値(四捨五入)
自己肯定感	(17)	当てはまる	+2	1.66...÷2
	(18)	どちらかといえば当てはまる	+1	
	(19)	当てはまる	+2	
自己有用感	(20)	当てはまる	+2	0.66...÷1
	(21)	どちらかといえば当てはまらない	-1	
	(22)	どちらかといえば当てはまる	+1	

自己肯定感・自己有用感の点数を集計すると、次のとおりになります。

自己肯定感・平均値



自己有用感・平均値



※グラフの数値は、小数第二位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

(3) 自己肯定感・自己有用感と他の設問の相関分析

児童生徒一人ひとりの自己肯定感・自己有用感の点数と(1)～(16)の各設問について、「自己肯定感(自己有用感)の点数が高いほど、肯定的な回答の割合が高くなるかどうか」を、相関分析の手法で分析しました。

相関分析

設問Aの回答が+になるほど、設問Bの回答も+になること(正の相関)や、逆に設問Aの回答が+になるほど、設問Bの回答は-になること(負の相関)を+1～-1の範囲の値で示す分析手法です。この相関を表す値を相関係数と呼びます。

本調査では、相関係数の意味を次のとおり解釈します。

相関係数の絶対値	意味
0.2～0.3	弱い相関がある
0.3～0.4	やや相関がある
0.4～0.7	かなり相関がある
0.7～1	強い相関がある

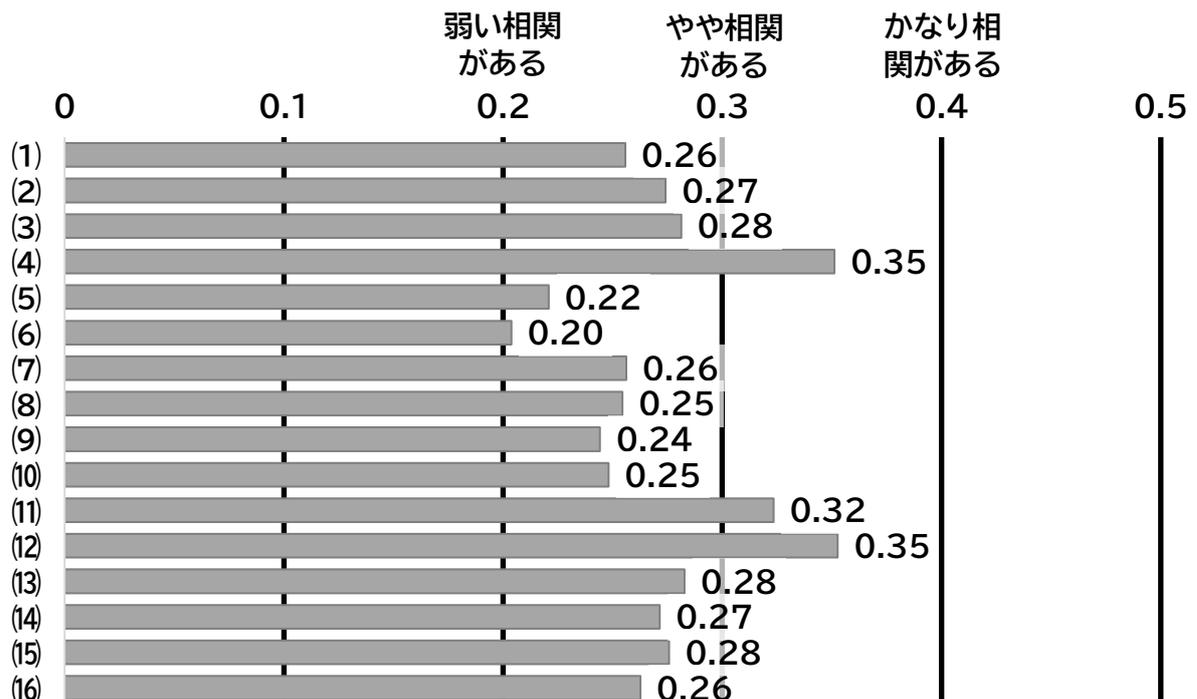
ただし、相関がある場合でも、因果関係は明らかにならない点には、注意が必要です。

例えば、自己肯定感の点数と自己有用感の点数の相関係数を求めると、次のとおりとなります。

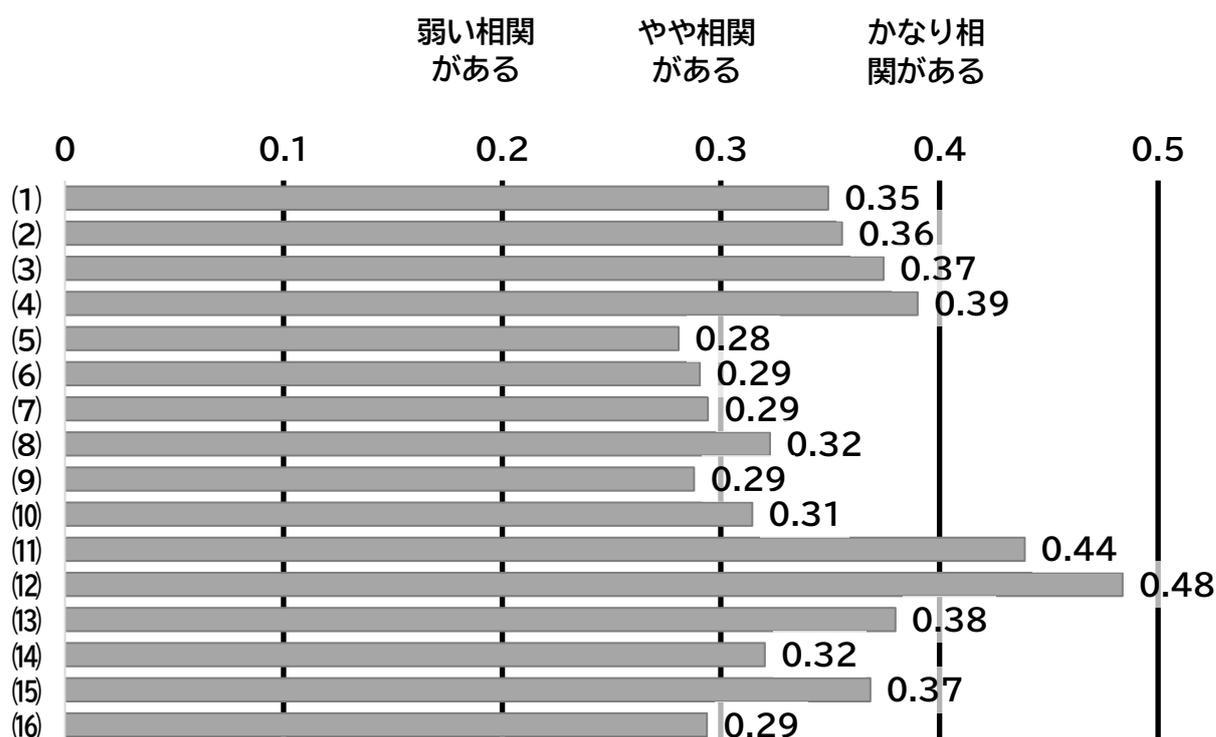
	自己有用感
自己肯定感	0.704809

相関係数が0.7を超えていることから、「強い相関がある」と解釈することができます。このことから、自己肯定感と自己有用感を一体的に育むことが重要であると改めて確認できます。同様に、自己肯定感・自己有用感の点数と各設問の相関係数を求めると、次のとおりとなります。

自己肯定感の点数と各設問の相関係数



自己有用感の点数と各設問の相関係数



【分析】

- 自己肯定感・自己有用感と(1)～(16)のすべての設問に、少なくとも弱い相関があることが分かります。一方、(1)～(16)の各設問は、目指す草加っ子の実態等に関する設問です。したがって、自己肯定感・自己有用感を育むことが、目指す草加っ子の育成と相関していることが分かります。
- 自己有用感の点数と各設問の相関は、自己肯定感との相関より強いことが分かります。したがって、目指す草加っ子を育成する際の指標として、自己有用感を用いることがより有効だと言えます。
- 自己肯定感と自己有用感共に相関が強い設問は、「(4) 自分の気持ちや考えを、相手に伝えるようにしている。」「(11) めあてや目標をもって学習や運動に取り組んでいる。」「(12) すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むようにしている。」です。この3点に配慮して教育活動を行うことが、自己肯定感・自己有用感の育成において有効であると推測できます。
- 自己有用感との相関では、上記のほか、「(1) 勉強や読書を通して、いろいろなことを知りたい。」「(2) 勉強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい。」「(3) 学んだことを、普段の生活で生かそうとしている。」「(13) 授業などを通して、草加について学ぶことは楽しい。」「(15) 自分が住む地域や、草加の役に立つことをしてみたい。」の相関係数が0.35を超えています。このことから、ふるさと草加を題材に各教科で学んだことを活用して課題解決を行う「ふるさと草加学習」が、自己有用感の育成に有効であると推測できます。

第3部 資料

1 電子回答の内容

本アンケートは、草加市電子申請システムを活用して実施し、児童生徒はタブレット端末から直接回答しました。

(1) 回答画面

草加市 でんしんせいページ | 施設等の予約は、予約手続表 を選択

様式管理

プレビュー 子ども教育の連携に関するアンケート【小学校3年生】

子ども教育の連携に関するアンケート【小学校3年生】

子ども教育の連携に関するアンケート【小学校3年生】

1 みんなのべん強や生活の ようすなどについて、答えてください。
2 しつもんについて、当てはまるものや、あなたの考えに一番近いものをえらんでください。

学校名をえらんでください。 必須

選択してください

学級をえらんでください。 必須

3年1組
 3年2組
 3年3組
 3年4組
 3年5組
 3年6組

選択解除

つぎのことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。当てはまるものをえらんでください。

(1) べん強や読書を通して、いろいろなことを知りたい。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(2) べん強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(3) 学んだことを、ふだんの生活で生かそうとしている。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(4) 自分の気持ちや考えを、あいてにつたえるようにしている。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(5) いじめをゆるさないで、思いやりをもって人と せつするようになっている。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(6) 人に めいわくをかけないように、やりたいことでも、がまんできる。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(7) あいさつや へんじをしっかりとするようにしている。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない

当てはまらない

選択解除

(8) 学校のきまりや、家の やくそくを まもることができる。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(9) ほぼ毎日、早ね早おきをして、朝ごはんを食べている。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(10) きめられた時間を まもることができる。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(11) めあてや目みようをもって 学しゅうや うんどうに とり組んでいる。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(12) すぐにあきらめず、ものごとに とり組むようになっている。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(13) しゅぎょうなどを通して、草加について学ぶことは楽しい。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(14) 草加のまちがすきだ。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(15) 自分がすむ 地いきや、草加のやくに立つことをしてみたい。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(16) なりたい しよくぎょうや しょう来の ゆめがあったり、目みようにする人がいたりする。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

つぎのことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。当てはまるものをえらんでください。

(17) 自分には、よいところ(長しよ)があると思う。 必須

当てはまる

どちらかといえば当てはまる
 どちらとも見えない
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(18) 自分は、まわりの人と同じくらい、かちのある人間だと思う。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらとも見えない
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(19) 自分のことをすきだと思う。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらとも見えない
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(20) むずかしいことでも、どりよくをつづければ、いつかできると思う。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらとも見えない
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(21) 自分は、ものごとを、まわりの人と同じくらいうまくやれると思う。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらとも見えない
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(22) 自分は、人のやくに立っていると思う。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらとも見えない
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

つぎのことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。当てはまるものをえらんでください。

(23) 中学生や国じと交りゆうすることは、楽しみだ。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

(24) 中学生や国じと交りゆうしてみたい。 必須

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

選択解除

ご回答ありがとうございました。

「確認へ進む」を選んだあと、必ず「申し込み」を押してください。

閉じる

(2) 設問内容

設問	学年	質問文
(1)	小3	べん強や読書を通して、いろいろなことを知りたい。
	小4～	勉強や読書を通して、いろいろなことを知りたい。
(2)	小3	べん強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい。
	小4～	勉強や読書を通して、新しいことを学ぶのは楽しい。
(3)	小3～	学んだことを、ふだんの生活で生かそうとしている。
	中1～	学んだことを、普段の生活で生かそうとしている。
(4)	小3	自分の気持ちや考えを、あいてに つたえるようにしている。
	小4	自分の気持ちや考えを、相手につたえるようにしている。
	小5～	自分の気持ちや考えを、相手に伝えるようにしている。
(5)	小3～	いじめをゆるさないで、思いやりをもって人と せつするようになっている。
	小6～	いじめを許さないで、思いやりをもって人と接するようになっている。
(6)	小3～	人に めいわくをかけないように、やりたいことでも、がまんできる。
	小6	人に迷わくをかけないように、やりたいことでも、がまんできる。
	中1～	人に迷惑をかけないように、やりたいことでも、がまんできる。
(7)	小3	あいさつや へんじをしっかりとするようにしている。
	小4～	あいさつや返事をしっかりとするようにしている。
(8)	小3	学校のきまりや、家の やくそくを まもることができる。
	小4	学校のきまりや、家のやくそくを守ることができる。

設問	学年	質問文
	小5～	学校のきまりや、家の約束を守ることができる。
(9)	小3～	ほぼ毎日、早ね早おきをして、朝ごはんを食べている。
	中1～	ほぼ毎日、早寝早起きをして、朝ごはんを食べている。
(10)	小3	きめられた時間を まもることができる。
	小4～	決められた時間を守ることができる。
(11)	小3	めあてや目ひょうをもって 学しゅうや うんどうに とり組んでいる。
	小4	めあてや目ひょうをもって学習や運動に取り組んでいる。
	小5～	めあてや目標をもって学習や運動に取り組んでいる。
(12)	小3	すぐにあきらめずに、ものごとに とり組むようにしている。
	小4～	すぐにあきらめずに、ものごとに取り組むようにしている。
(13)	小3	じゅぎょうなどを通して、草加について学ぶことは楽しい。
	小4～	じゅ業などを通して、草加について学ぶことは楽しい。
	小6～	授業などを通して、草加について学ぶことは楽しい。
(14)	小3～	草加のまちがすきだ。
	小5～	草加のまちが好きだ。
(15)	小3	自分がすむ 地いきや、草加のやくに立つことをしてみたい。
	小4～	自分が住む地いきや、草加の役に立つことをしてみたい。
	中1～	自分が住む地域や、草加の役に立つことをしてみたい。
(16)	小3	なりたい しょくぎょうや しょう来の ゆめがあったり、目ひょうにする人がいたりする。
	小4	なりたいしょく業やしょう来のゆめがあったり、目ひょうにする人がいたりする。
	小5	なりたいしょく業やしょう来のゆめがあったり、目標にする人がいたりする。
	小6	なりたい職業やしょう来の夢があったり、目標にする人がいたりする。
	中1～	なりたい職業や将来の夢があったり、目標にする人がいたりする。
(17)	小3	自分には、よいところ(長しよ)があると思う。
	小4～	自分には、よいところ(長所)があると思う。
(18)	小3～	自分は、まわりの人と同じくらい、かちのある人間だと思う。
	小5	自分は、周りの人と同じくらい、かちのある人間だと思う。
	小6	自分は、周りの人と同じくらい、価値のある人間だと思う。
	中1～	自分は、周りの人と同じくらい、価値のある人間だと思う。
(19)	小3～	自分のことをすきだと思う。
	小5～	自分のことを好きだと思う。
(20)	小3～	むずかしいことでも、どりよくをつづければ、いつかできると思う。
	小5～	むずかしいことでも、努力を続ければ、いつかできると思う。
	中1～	難しいことでも、努力を続ければ、いつかできると思う。
(21)	小3	自分は、ものごとを まわりの人と同じくらいうまくやれると思う。
	小4	自分は、物事をまわりの人と同じくらいうまくやれると思う。
	小5～	自分は、物事を周りの人と同じくらいうまくやれると思う。
(22)	小3	自分は、人のやくに立っていると思う。

設問	学年	質問文
	小4～	自分は、人の役に立っていると思う。
(23)	小3	中学生や園じと交りゆうすることは、楽しみだ。
	小4	中学生や園じと交流することは、楽しみだ。
	小5	中学生や園児と交流することは、楽しみだ。
	小6	中学生や園児と交流することは、楽しみだ。
	中1	小学生や園児と交流することは、楽しみだ。
	中2	小学生や園児と交流することは、楽しみだ。
	中3	小学生や園児と交流することは、楽しみだ。
(24)	小5	中学生になったら、小学生や園児と交流してみたい。
	小6	中学生になったら、小学生や園児と交流してみたい。
	小3	中学生や園じと交りゆうしてみたい。
	小4	中学生や園じと交流してみたい。
	中1	小学生や園児と交流してみたい。
	中2	小学生や園児と交流してみたい。
	中3	小学生や園児と交流してみたい。
(25)	小5	中学校へ進学することは楽しみだ。
	小6	中学校へ進学することは楽しみだ。
	中1	小学校6年生のとき、中学校へ進学することが楽しみだった。

令和4年度草加市子ども教育の連携に関する児童生徒アンケート報告書

発行年月 令和5年2月

発行 草加市教育委員会 子ども教育連携推進室

〒340-0015 埼玉県草加市高砂2丁目1番7号 ぶぎん草加ビル4階

電話：048-922-3494（直通）
